



Better Health, Brighter Future



2019 SUSTAINABLE VALUE REPORT

武田薬品工業株式会社



1781年、初代近江屋長兵衛は大阪・道修町で和漢薬の商売を始めました。これが、タケダの始まりです。グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとなった今でも、私たちは創業時から変わらないバリュー（価値観）に基づいて事業を行っています。この揺るぎない価値観を、「タケダイズム」と呼んでいます。今年のサステナブルバリューレポートでは、私たちがタケダイズムの精神に則り、社会やステークホルダーのための持続可能な価値創造および世界中の患者さんの生活の質の向上に向けて展開している活動についてご紹介します。

このレポートについて

「サステナブルバリューレポート2019」では、武田薬品工業株式会社(タケダ)のヘルスケア、人材管理、環境への影響と事業ガバナンスにおける持続可能な価値創造に向けた取り組みを説明します。本レポートの内容は、GRIスタンダード：中核オプションと国連グローバル・コンパクト(GC)に即した構成で示しています。GRIスタンダードと国連GCの各項目とレポート構成の関係については、巻末の対照表をご覧ください。本レポートでは、武田薬品工業株式会社とタケダグループ連結対象会社の活動を報告しています。報告期間は、2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)です。2019年の活動も一部含まれています。2019年1月8日、タケダはShire plc (シャイアー)の買収を完了しました。2019年1月8日から2019年3月31日までの旧Shire社のデータは、特に明記しない限りタケダの業績に含まれています。統合に関連する活動は、本レポートを通して示されています。

- ✓ を付した旧武田薬品の2018年度のデータは、KPMGあずさサステナビリティ(株)が保証しています。2019年1月1日から2019年3月31日までの旧Shire社のデータは、Apex Companies, LLCが保証しています。第三者保証報告書は、105~109ページをご覧ください。

タケダの持続的な価値創造に向けた取り組みについてのご意見やご質問は、こちら sustainablevalue@takeda.comまでお寄せください。詳細については、ホームページをご覧ください。 www.takeda.com

Contents

CEOメッセージ	4
アプローチ	6
保健医療	17
職場	42
環境	51
ビジネス	66
Appendix	87





「誠実」を旨とする 価値観に基づき行動します。

クリストフ・ウェバー

代表取締役
社長 CEO

私たちの価値観（バリュー）は、何事にも誠実に取り組むという私たちの活動指針であり、230年以上にわたり、タケダのあるべき姿、なすべき事を定義してきました。このバリューは、社会におけるタケダの役割を常に自覚させてくれます。すなわち、常に患者さんを中心に考え、世界中のアンメットニーズに対応する新規かつ革新的な治療法を創出するという私たちの活動の原点です。

2019年にグローバル企業であるシャイアーを買収したことにより、私たちの取り組みは一層強化されました。シャイアー買収により、グローバル拠点は拡大し、世界中のより多くの患者さんのいのちに携わることとなりました。日本に本社を置き、バリューに基づくグローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとして、機動性を維持しつつ、サイエンスに裏打ちされた高度に革新的な医薬品を創出することにより、引き続き患者さんの生活の質の向上に貢献してまいります。タケダは、希少疾患や難病においても革新的な医薬品を開発するリーディングカンパニーとなりました。これらの疾患領域では、患者さんが十分な医療を受けていないことが多く、深刻な状態に至る可能性があります。タケダは、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、希少疾患

およびニューロサイエンス（神経精神疾患）の4つの疾患領域に重点的に取り組むとともに、血漿分画製剤とワクチンにも引き続き注力してまいります。

私たちは、人々の命を救う、あるいは人生を一変させるような医薬品の研究開発を進めることにより、人々の健康に貢献できるよう懸命に取り組んでいます。世界のどの地域に住む人も、私たちの革新的な医薬品を利用できることが重要だと考えています。患者さんがたどる全ての過程（疾患の認識、診断、治療、その後の生活に至るまでの道のり）において、保健医療制度が持続可能な形で構築・強化されるよう取り組んでまいります。患者さんは私たちの医薬品を通じて私たちのことを信頼してくださっています。タケダは、このような高い期待にお応えする、あるいはその期待を超えるよう努力してまいります。

5ページに続く



タケダのグローバルCSRプログラムは、途上国・新興国の保健医療アクセスの改善と保健人材の育成への長期的な支援を優先項目としています。地域の医療従事者を対象とした教育や重篤な疾患をもつ子どもたちを対象としたキャンプなど、様々なプログラムを実施し、世界各地の患者さんの健康と生活の質の改善に向けて取り組んでいます。私たちは、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を踏まえた事業活動やCSR活動を展開しており、国連グローバル・コンパクト (UNGC) のメンバーとしても長年活動しています。

持続可能な価値の創出は、タケダの企業としての課題であると同時に、世界約80カ国で働く約5万人の従業員の課題でもあります。グローバルCSRプログラムでは、世界中の従業員からの投票により支援プログラムが決定されました。世界環境デーには、各国の事業所が全米植樹祭財団と共同で4万本の植樹を行うなど様々な環境プログラムに参加しました。また、「従業員参加プログラム」を通じて、実際の支援先を直接訪問し、世界各地の人々の暮らしを変えるインパクトを私たちの仕事が生み出していることを実感しています。

私たちは、全てのオフィス、生産拠点や研究所の従業員が新たなスキルを習得する機会を提供され、キャリアを形成できるインクルーシブな企業であることを目指しています。タケダで働く全ての従業員には、それぞれに求められる貢献があり、その貢献度によって評価されます。タケダは、その人材

開発プラットフォームとプログラムにより、能力が強化され、活気のある職場環境の醸成に繋がっています。

例えば、グローバル・アクセラレーター・プログラムでは、キャリアの早い段階にいる従業員を様々な地域での職務に派遣したり、メンタリングや学習イベントを通じて育成をしています。

世界中のアンメットニーズに対応する革新的な治療法の開発を進めるのと同様に、温室効果ガスの排出量削減にも取り組んでいます。その取り組みの一環として、CO₂排出量やその他の温室効果ガスの排出量削減について野心的な目標を設定し、その進捗状況を確認するマイルストーンも設定しました。

常に誠実であると同時に、
革新性と機動性を持つ企業文化
を、従業員と共に構築します

人々の健康と医療の未来に貢献するため、何事にも誠実に取り組むことが、次世代も見据えた私たちの揺るぎないコミットメントです。「患者さんのために、これまで以上に何ができるか？」タケダでは、すべてがこの問いかけから始まります。このレポートで私たちの取り組みをご覧ください。

クリストフ・ウェバー
代表取締役 社長 CEO

2019年12月

経営の基本精神

タケダは、日本に本社を置き、常に患者さんを中心に考える、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーです。サイエンスに裏打ちされた高度に革新的な医薬品を創出することにより、人々の健康と医療の未来に貢献します。

ミッション

優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献すること。

バリュー

タケダイズム(誠実・公正・正直・不屈)は、私たちの過去、現在、将来の活動の全てを支える基盤です。社会におけるタケダの役割は患者さんを第一に考え、医療を推進する新たな方法を追求することであり、タケダイズムは私たちのそうした活動の指標となるものです。



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の規準とします。

1

常に患者さんを中心に考えます

2

社会との信頼関係を築きます

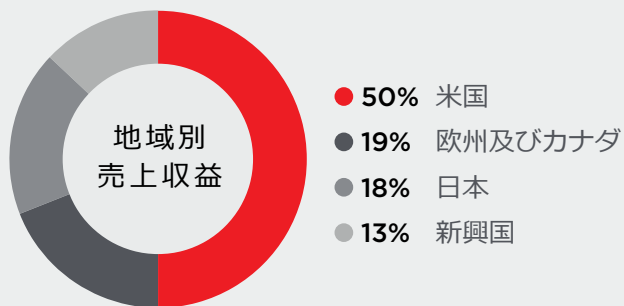
3

レピュテーションを向上させます

4

1, 2, 3を実現したうえで、事業を発展させます

Global Scale and Scope



主要拠点



約300億ドル
約3.3兆円

2018年度の実質的な売上収益¹

約50,000人

従業員

¹シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づくPRO-FORMA情報(試算)が含まれています。このPRO-FORMA情報は、米国証券取引委員会の定めるREGULATION S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。このPRO-FORMA情報は、説明の便宜のため提示するものであり、また本レポートの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断はシャイアー社の買収が実際に2018年4月1日付で完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。

戦略ロードマップ

タケダのビジョンは、私たちのバリュー、ゴール、コミットメントを明確に示しています。私たちは、すべての事業活動において患者さんのニーズを中心に考えます。私たちは、機敏性の高いベスト・イン・クラスの研究開発型企業として、最先端の事業に取り組むパートナーと協働し、イノベーションを推進します。多様な従業員が活躍することを応援します。高い実績の維持に向け努力します。タケダイズムの実践を通じ、社会やステークホルダーから信頼されることを目指します。

タケダの戦略ロードマップは、私たちが目指すゴールに向けた道筋であり、「Value-Based」「Empower our People to Shine」「Dare to Discover」「Business」の4領域で構成されます。この長期目標に対する進捗状況を示すため、KPIキー・パフォーマンス・インジケータを策定し、タケダ・エグゼクティブ・チーム (TET)が各項目の確認と管理を行っています。

ビジョン

タケダが実現を目指す未来の姿

タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。

機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

主要な5領域の 製品とブランド



消化器系疾患

Entyvio
vedolizumab

Takecab

ALOFISEL
(darvadstrocel)

Gattex
(telaprade) (DMA origin) for injection

DEXILANT
dexlansoprazole

Lialda
(mesalamine) 1.2g
delayed release tablets

amitiza
lubiprostone

motegrity
(prucalopride) tablets 1mg, 2mg



希少疾患

希少代謝疾患

elaprase
(idursulfase)

REPLAGAL
enzyme replacement therapy
CHANGING THE FACE OF FIBROSYCLISA

VPRIV

Natpara
(parathyroid hormone)
for injection

希少血液疾患

ADVATE
(Antihemophilic Factor (Recombinant))

ADYNOVATE
(Antihemophilic Factor
(Recombinant), PEGylated)

vonvendi
(von Willebrand factor
(Recombinant))

Obizur
(Antihemophilic Factor
(Recombinant), Porcine Sequence)

RIXUBIS
(COAGULATION FACTOR IX
(RECOMBINANT))

AGRYLIN
(anagrelide hydrochloride)
Capsules of 0.5mg and 1mg

遺伝性血管性浮腫

TAKHZYRO
(lanadelumab subcutaneous injection)

firazyr
(icatibant injection)

KALBITOR
ecalantide



血漿分画製剤

希少免疫疾患

IMMUNINE

FEIBA

IMMUNATE

HEMOFIL M

IMMUSEVEN

CINRYZE
C1 inhibitor (human)

GAMMAGARD LIQUID
(Immune Globulin
intravenous (Human)) 10%

HyQvia
Human Normal Immunoglobulin (10%)
Recombinant Human Hyaluronidase

Cuvitru
(Human Normal Immunoglobulin, 20%)
for subcutaneous administration

Flexbumin
(Human Albumin)

HUMAN ALBUMIN
solution for injection

Glassia

Aralast NP
Bifunctional Factor Xaase

kenketu glovenin-1

KENKETU NONTHRON

KENKETU ALBUMIN



オンコロジー (がん)

NINLARO
(ixazomib) capsules

ALUNBRIG
BRIGATINIB
TABLETS

VELCADE
VORINOSTERIN INJECTION

ADCETRIS
brentuximab vedotin for injection

ICLUSIG



ニューロサイエンス
(神経・精神疾患)

Vyvanse

Trintellix
vortioxetine

Mydayis[®]
(mixed salts of a single-entity
amphetamine product)

AZILECT

intuniv

BUCCOLAM

Social Value

タケダは、保健医療システムの強化や、患者アクセスの強化など、様々な形で社会へ価値を創出しています。

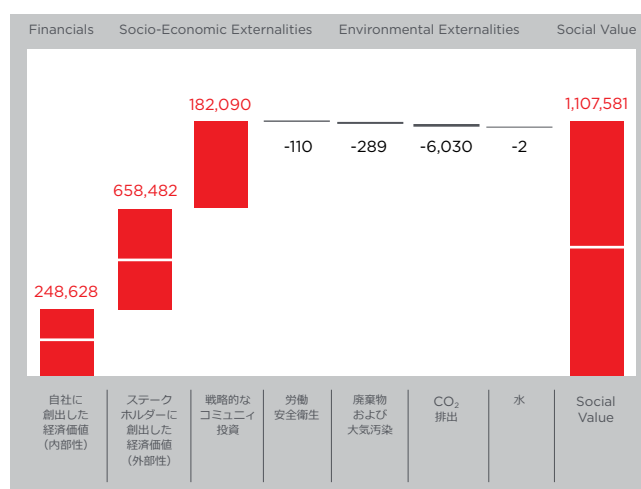
しかしながら、私たちが創出する社会への価値は、タケダの事業による影響で一部相殺されています。私たちのステークホルダーにより包括的な視点を提供するため、タケダの環境、社会、ガバナンス (ESG) に関するパフォーマンスの正味の Impact を定量化する評価を行っています。国際統合報告評議会が提唱する株価純資産倍率 (IIRC-PBR) などの統合報告原則により、企業が創出する社会的・環境的価値は、その企業の市場価値と正の相関関係を示すことが明らかにされています¹。このアプローチは、タケダの事業価値と社会的利益との関係を、より透明性の高い形で示すことを目的としています。乗数は、学術論文や政府機関の研究で示されている乗数を用いています

。試験的に実施した昨年の分析に対して、評価方法についていくつかの改善を加えたため、年ごとの直接比較は困難となっています²。今回の計算は、ステークホルダーに対してタケダが創出する価値をよりよく把握、管理し立証するための第一歩となります。今年度を示した通り、タケダのアプローチは改善に向けた継続的取り組みの一つです。将来的には、この分析が事業の目的や優先課題との関連をよりよく示し、戦略を進める上でどう活用するかについても検討していきます。

タケダのアプローチ

タケダの環境および社会に対する取り組みがもたらす価値を定量的に評価するため、タケダの財務、コミュニティへの投資、排出量、水使用量、および労働安全衛生に対して社会的価値乗数を乗じました。この測定方法はタケダの事業内容にのみ適用し、より広いバリューチェーンに対する影響は、本年度の評価で行っていません。本調査は、Ernst & Young の助言やインパクト評価ラウンドテーブルなどで得られた企業における実践的な取り組みを参考に作成されました。

結果の概要¹ (単位：百万円)



¹ 89ページのSOCIAL VALUE参考文献一覧表をご覧ください。

¹ YANAGI, R (2018). CORPORATE GOVERNANCE AND VALUE CREATION JAPAN

² タケダによる直接の事業活動のデータのみを分析対象としています。サプライチェーンのデータは、本年度の計算に含まれていません。財務、環境、および安全性に関するデータには、タケダの2018年度データと、SHIREの2018年度第4四半期のデータを含めています。戦略的な社会投資には、タケダのみのデータを含めており、医薬品アクセスのデータは含みません。

* SOCIAL VALUE: TRUE VALUEメソッドロジーに基づいて算出しています。

分析

Social Value の計算によれば、タケダの全体としての Social Value は、タケダが自社に創出した経済価値の約 4 倍です。Social Value の値は、タケダの 2018 年度の売上収益に比べ小さくなりますが、その理由はサプライチェーンからの価値創出や革新的医薬品や医薬品アクセスプログラムにより患者さんに生じる価値等、我々が創出している主要領域の一部が把握できていないことによります。2018 年度の Social Value の計算は、ステークホルダーに対して創出する価値に関する保守的な見解を示すものであり、今後はタケダの Social Value の全体像を評価、理解し、伝えるための新たな方法の検討を続けていきます。

メソドロジー

FINANCIAL

自社に創出した経済価値 (内部性)

- ・売上高より諸費用(従業員に対する給与及び賞与の支払いを含む)及びステークホルダーへの支払金額(法人所得税費用、配当金の支払い及び利息の支払いを含む)を引いた金額
- ・2018年度の企業業績の詳細については、米国証券取引委員会 (SEC)に提出したForm 20-F年次報告書に示しています。

SOCIOECONOMIC

ステークホルダーに創出した経済価値 (外部性)

- ・従業員に支払う給与及び賞与の支払、法人所得税費用、投資家に対する配当金の支払い及び資金提供者に対する利息の支払の直接的寄与
- ・業績向上により、全体としての貢献度の上昇がみられます。
- ・タケダのグローバルCSRプログラムとパートナーシップが社会に及ぼす肯定的な影響(死亡者数の削減、非感染性疾患に対する医療費の節約など)

戦略的な社会投資

- ・戦略的社会投資プログラムについて測定した成果は、Social Return on Investment (SROI)アプローチを用いて求めています。分析に含めたプロジェクトには、World Vision、国連児童基金(UNICEF)、国連財団、セーブ・ザ・チルドレン、プラン・インターナショナル、およびグローバルファンド(タケダ・イニシアティブ)などのパートナーシップがあります。
- ・労働災害による所得創出能力の損失、医療費及び事務管理費の増加

ENVIRONMENTAL

労働安全衛生

- ・大気汚染データより、大気汚染(PM10, NOx, SO2, VOC)による健康および環境に対するマイナスの影響を算出

廃棄物及び大気汚染

- ・廃棄物のデータは、廃棄物の焼却・埋立による健康への影響と公的な予算負担、およびリサイクルの効果を含まれます。

CO₂ 排出量

- ・CO₂排出量のデータは、気候変動によるマイナスの影響(農業の生産性低下、ヒトの健康、洪水リスク上昇による財産の損失など)と関連します
- ・社会および環境への経済的影響は、炭素価格を用いて評価しています。

水

- ・水に関するデータは、各操業地域における水不足レベルと関連する取水の社会的なコストと関連します。

グローバルCSRプログラムとパートナーシップを通じて創出した価値に関する詳細は、本レポートの32~41ページをご覧ください。カーボンフットプリントを最小限に留めるための活動の詳細については、51~65ページをご覧ください。

タケダの持続的な 価値創造への アプローチ



**私たちは、患者さんを助けるために存在しています。
製薬業界を変革し、患者さん中心の活動を進め、さらなる社会貢献を行うという
目標を掲げるタケダのコミットメントの基本にあるのは、この考え方です。**

私たちは、良き企業市民として、また患者さん中心に活動する企業として、責任をもって活動しています。私たちは、環境、従業員、コミュニティその他のステークホルダーに関わる活動を通じて良い影響を生み出し、持続的な社会の実現に貢献できるよう活動しています。全ての人のためになる持続的な価値創造が、私たちの仕事です。最終ゴールは常に同じです。「人々の健康と医療の未来に貢献する」この目標に向けた努力が、社会との信頼関係を作り、レピュテーションの向上につながります。

私たちは連携し、タケダの持続的な価値創造と長期ビジョンに向けて活動しています。私たちは、地域のパートナーや、グローバルに活動するパートナーと長きにわたる協力関係を築いています。タケダのグローバル CSR プログラムとパートナーシップでは、新生児および母子の健康の強化、感染性疾

患の予防と治療を中心に行うほか、非感染性疾患もカバーしています。私たちの CSR 活動のなかには、タケダの製品とは一見無関係な活動もありますが、人々が病気になるまで待つのではなく、健康な人々をお手伝いする道を探る企業として、幅広い CSR 活動を展開しています。

サステナビリティ（持続可能性）の視点から見たタケダの事業活動



ESG開示と透明性

環境、社会、ガバナンス (ESG) への私たちの影響の透明性を確保し、開示することはきわめて重要です。機関投資家が企業と対話する際に、企業の長期的で持続的な価値創造を重視する傾向が強まっています。このため、ESG 評価機関によるレポートも重要性を増しています。タケダは、ESG 評価機関や機関投資家との対話から得られた期待を理解し、それに対応することで、事業活動や情報開示に反映しています。



指数/格付け	企業・機関	国	組み入れ状況
 <p>MEMBER OF Dow Jones Sustainability Indices In collaboration with </p>	S&P Dow Jones Indices	米国	Asia Pacific Index — 10年連続 World Index — 2019年9月～
 <p>2019 GLOBAL100</p>	Corporate Knights	カナダ	4年連続
 <p>FTSE4Good</p>	FTSE Russell	英国	15年連続
 <p>2019 Constituent MSCI ESG Leaders Indexes</p>	MSCI ¹	米国	10年連続
 <p>member of the INVESTMENT REGISTER ETHIBEL EXCELLENCE</p>	Forum Ethibel	ベルギー	2017年7月～
 <p>Corporate ESG Performance RATED BY ISS ESG Prime</p>	ISS-Oekom	ドイツ	2年連続
 <p>SAM Sustainability Award Industry mover 2019</p>	RobecoSAM	スイス	2019年2月～

¹ タケダのMSCIインデックスの組入や、MSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連企業による後援、推奨や販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

タケダは、国連の持続的可能な開発目標 (SDGs) などの国際的枠組み、スイス・ダボスで毎年開催される世界経済フォーラム (ダボス会議) をはじめとする国際会議や、民間活動団体 (NGOs) との対話を通じて、タケダの持続可能な目標を評価しています。世界各国の市民社会のニーズを理解することで、私たちの優先課題を調節し、ニーズが最も大きい地域に向けた活動を定めることができます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



タケダは、SDGsのなかの2項目に関するCSR活動を展開しています。私たちのエンゲージメントに基づくグローバルCSRプログラムでは、「Good Health and Well-Being」(SDG目標3)に取り組み、疾病予防による健康改善と、途上国・新興国におけるキャパシティ・ビルディングを活動の目標としています。個々のプログラムはステークホルダーと連携して策定しますが、実施するプログラムはタケダの従業員が選択し、オーナーシップの醸成に役立っています。



グローバルCSRパートナーシップ活動は、「Partnerships for the Goals」(SDG目標17)に取り組むもので、私たちがより戦略的に機動性をもって活動する力となる内容です。これらの活動を通じ、拡大しつつある非感染性疾患の課題を認識しつつ、HIV/AIDSなどの感性的疾患に迅速に対応しています。[グローバルCSRパートナーシップの章](#)をご覧ください。

小児の希少疾患の早期診断に向けて

タケダ、マイクロソフトとEURORDIS-Rare Diseases Europeが共同議長をつとめるGlobal Commission to End the Diagnostic Odyssey for Children with a Rare Disease (小児の希少疾患の診断を早期・正確に確定させる取組)、以下「グローバルコミッション」は、患者支援団体、医師や専門家など、希少疾患コミュニティが直面する課題と解決法に詳しい多様な人々で構成されています。希少疾患児がより長く、より健康な生活を送るためには、早期診断が最も重要となります。グローバルコミッションとのパートナーシップは、テクノロジーと支援を結びつけ、診断までの時間を大幅に短縮することを目標にしています。



GLOBAL COMMISSION

to End the Diagnostic Odyssey for Children with a Rare Disease

2019年上半旬、グローバルコミッションは **actionable roadmap** (実施可能なロードマップ) を発表しました。ロードマップは、診断されるまでに何年もかかる状況の打開を目指して、ブロックチェーンや顔認証などの最新技術を用いるパイロットプロジェクトをはじめ、分析や意志決定のためのデータの共有を進めつつも患者のプライバシーを保護するための提案を示しています。グローバルコミッションは、タケダのCenter for Scientific Leadership and Innovationと共同で、患者さんや家族が医師とより密接に協力し、希少疾患に関する考え方を変える力となるような、革新的で根本的な解決法の特定と進歩に向けた活動を実施しています。グローバルコミッションの取り組みは、タケダのビジョンに整合しています。すなわち、タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

ガバナンス

サステナビリティ活動では、事業活動と同様、 最大限のインパクトを与えられるよう努力しています。

大きなインパクトを作り出すには、規律あるアプローチで取り組みを選び、効果的に実行することが必要です。サステナビリティに関するガバナンスは、4つのステップで構成しています。

1. サステナビリティに関する重要案件は、タケダのトップマネジメントが検討し、意思決定を行います。これらの案件はビジネス・レビュー・コミッティー（BRC）や、タケダ・エグゼクティブチーム（TET）や取締役会で取り扱われます。
2. デューディリジェンス サステナビリティは、経営判断における重要な要素です。事業活動に起因する社会・環境影響については、潜在的な影響を含めて事前に特定し、担当部門が活動を指揮して適切に対処することで企業価値の保全を図っています。
3. 実施 特定したマテリアルな課題は、品質、人権、労働、環境、購買、サプライチェーン管理、コンプライアンス、コミュニティなどに分類・案件化され、関連部門が対応します。
4. 開示 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ（CCPA）内に設置されているCSR専門組織では、国連GCアドバンスドレベル基準、グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）スタンダード、国際統合報告委員会（IIRC）統合報告フレームワーク、サステナビリティ・アカウンティング・スタンダードなどを参照しながらサステナビリティ関連情報の開示活動を進めています。

マテリアリティ

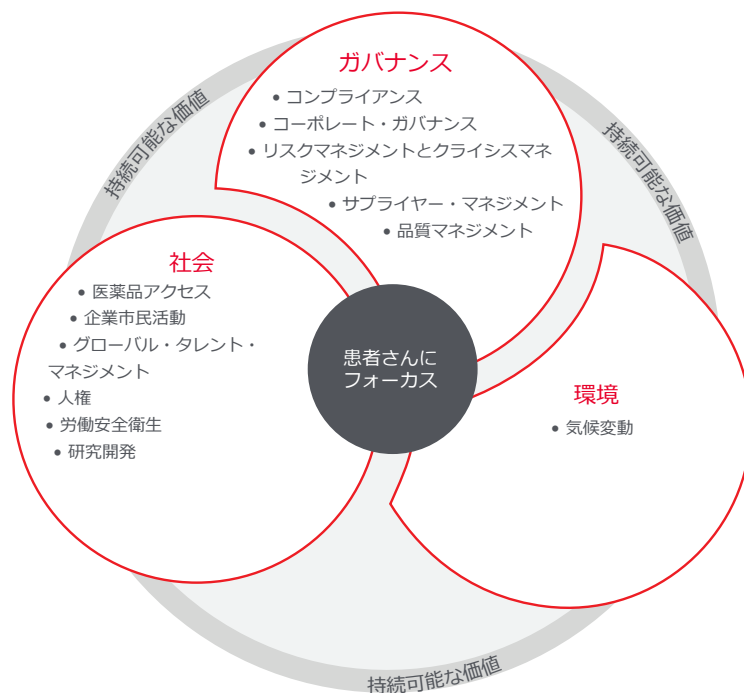


研究所での活動、新規化合物の開発からカーボンフットプリント削減に至る全ての活動で、目に見える結果を出し価値を創造できるよう努力しています。

タケダは、持続的な価値創造にも同様のアプローチを用いています。タケダは包括的なレビュープロセスを実施し、社会、投資家、タケダの従業員にとっての重要性に基づき、タケダの事業の強みが活かせる点に集中できるように ESG の領域を選択しています。

このプロセスには、タケダの全社戦略、SDGs などの国際規範、グローバル・レポート・イニシアティブ (GRI)、サステナビリティ・アカウンティング・スタンダード・ボード (SASB) の基準や、各 ESG 評価機関のレビューも含まれます。

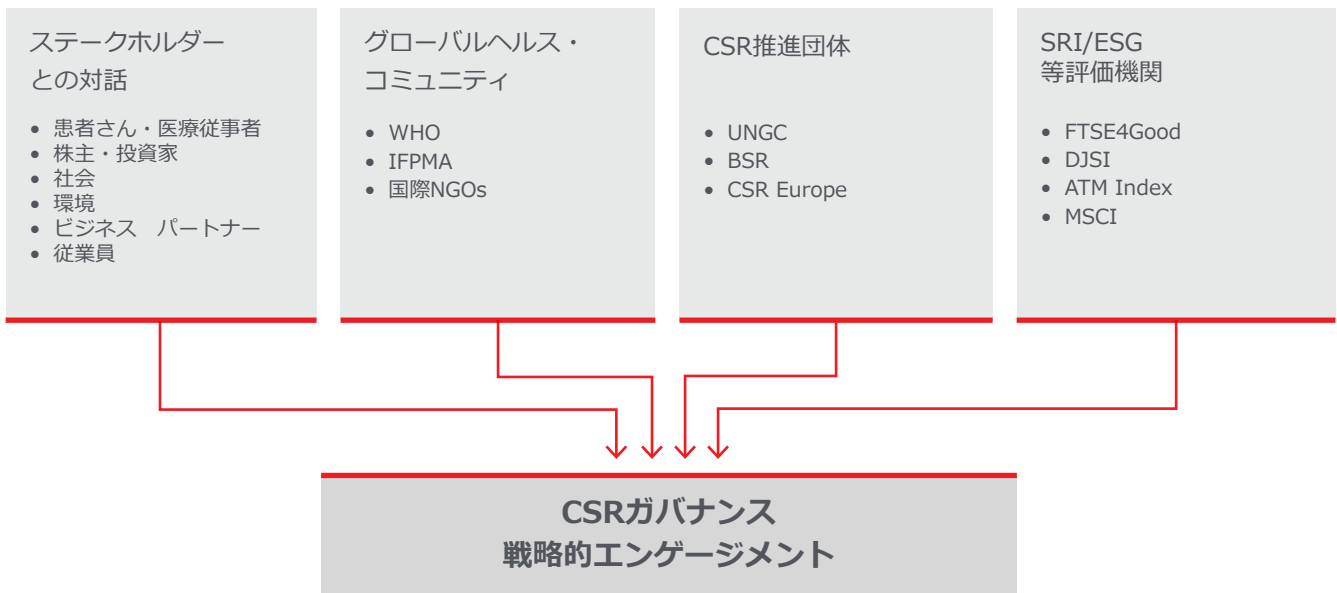
現在の重点分野：



戦略的エンゲージメント

タケダは、戦略的エンゲージメントを通じ、多様なコミュニティやステークホルダーが関心をもつ課題の理解を試みています。タケダは、評価機関、財団やグローバルヘルス・コミュニティとの対話を通じ、世界のサステナビリティのトレンドの把握を進めています。コミュニケーションの質の向上を目指し、コーポレート・ガバナンス・コードなど様々な指針に基づき情報の開示と発信を行っています。この対話を通じてタケダにとって特

に重要な課題を検討・整理し、事業活動と同等の厳密さと規律をもってサステナビリティ活動を推進しています。2019年7月には、タケダのCRSチームは社外ステークホルダーへアウトリーチ活動を実施し、タケダの持続可能な価値創造戦略に対する見解や期待を把握するとともに、タケダからの報告を行いました。



パートナーシップ

パートナーシップは、タケダの事業の成長と企業市民としての活動の両面できわめて重要な要素です。事業面では、バイオベンチャーとアカデミアと幅広いパートナーシップ活動を展開しており、サステナビリティ活動においては、下記の国際機関などとのパートナーシップを積極的に推進しています。



グローバルCSRプログラム・パートナーは、本レポート32ページの「保健医療」の章に掲載しています。



A Brighter Future Through Better Health

IN THIS CHAPTER

- ・研究、開発 (R&D)
- ・医薬品アクセス
- ・グローバル CSR プログラムと
パートナーシップ

Overview

日本に本社を置き、自らの経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考えるというバリュー（価値観）を根幹とする、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとして、タケダは世界中の人々により健やかで輝かしい未来に貢献するというゆるぎないコミットメントを持っています。

タケダはその強みを活かし、イノベティブなパートナーとの密接に連携しつつ、世界のあらゆる地域の患者さんの保健医療の改善に向け活動しています。その活動は、新薬の開発から、負担能力に応じた患者支援プログラムに至るまで、多岐にわたります。

タケダの活動は保健医療システムと様々な形で交わります。いずれの点においても、常に患者さんを中心において実行します。タケダの事業の基本は、サイエンスにあります。タケダの研究拠点では、世界でも特に困難な医学的課題や疾患に取り組む医薬品やワクチンの創出と開発に力を注いでいます。

保健医療アクセスに問題がある場合は、タケダの医薬品アクセスプログラムが患者さんを支援し、経済面や物流面をはじめとする課題の克服をサポートします。また、タケダはパートナーと連携し、患者さんがたどるすべての過程（患者さんが疾患を認識してから診断、治療、その後の生活に至るまでの道のり）で保健医療システムの強化を支援します。

タケダのグローバル CSR プログラムは、国連の持続的可能な開発目標（SDGs）の「目標 3： Good Health and Well-Being」と「目標 17： Partnerships for the Goals」の達成支援を目標として策定しています。タケダの活動の全てにおいて、不十分なアクセスの不均衡、疾病予防、流行/疾病の根絶、パンデミックへの備え、気候変動が人々の健康に及ぼす影響など、世界の保健医療システムが直面する課題に留意しています。



研究・開発 (R&D)



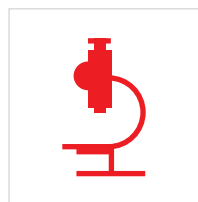
研究・開発 (R&D) は、バリュー、人材、事業の持続的成長とともに、タケダの戦略ロードマップの4本の柱としてタケダの企業文化を支えています。

R&Dはタケダのイノベーションの原動力です。グローバルのネットワーク、および外部パートナーとの協働により、患者さんの生活に変化をもたらす革新的な医薬品の開発に取り組んでいます。タケダでは4,400名を超える研究者が力をあわせ、新たな治療選択肢の研究・開発を行っています。2018年度には、3,683億円の研究開発費を投じました。

タケダは、社内外の別なく最高のサイエンスを探索し、長期的な投資を行います。タケダは、厳格なライセンス契約や、従来型の企業買収にとられない形の互恵的パートナーシップをバイオテクノロジー企業や製薬企業、アカデミア、ほかNPOや政府機関と結び、イノベーションの開発に取り組んでいます。タケダは多様なモダリティのパイプラインを構築し、画期的な新薬の創出を目指し、パートナーと協働しています。一社では出来ないことも外部パートナーとの協働により、患者さんのアンメットメディカルニーズへの取り組みを進め、競争が激しい市場で求められるスピードと効率性を実現できるよう取り組んでいます。タケダは現在、200を超えるパートナーシップを持ち、イノベーションの最前線で活動しています。

現在の研究開発活動の重点領域は次の通りです。

- ・ 進歩への道を一步一步進むのではなく、革新的な影響を及ぼすような医薬品の創出に向け、新たなイノベーションの波を起こすべく活動しています。
- ・ 細胞療法、遺伝子療法、がん免疫治療、データサイエンスやトランスレーショナル医学をはじめとする新たな機能や次世代技術に投資します。





- ・世界最大の希少疾患医薬品企業として、業界屈指の希少疾患パイプラインの開発を進めています。十分な医療を受けられていない患者さんらのために、必要不可欠な医薬品をお届けできるよう取り組んでいます。タケダは希少疾患パイプラインの開発後期にある品目の開発に力を入れ、現在の疾病領域のリーダーとしての地位を再定義するとともに、パートナーと共に新たな希少疾患領域において新規のプラットフォームやプログラムにおいての活動を広げていきます。

- ・ワクチン開発の強化は、医薬品アクセス改善に向けた重要な一歩です。ワクチン開発のプロセスを通じ、タケダは医薬品アクセスに関する企業文化の構築に向けたステップを歩んでいます。将来的には、各グローバルプログラムチームに医薬品アクセス担当リーダーを置き、作業文書における医薬品アクセスに関する項目の整備、およびKPIや目標の設定、またロードマップの策定や、アクセスプログラムの標準化などを行い、医薬品アクセスを事業のドライバーとして確立させる予定です。

- ・R&D主導の従業員フェローシッププログラムを通じ、従業員が保健医療制度を構築中の国や地域を訪れ、医療従事者の知識・技術の向上に貢献することにより、医薬品への患者さんアクセスを向上させる活動を展開しています。

- ・疾病負荷やアンメットニーズをさらに理解するため、患者団体、患者支援団体などのステークホルダーとの活動を行っています。これらのパートナーシップにより、タケダは患者さんのために医薬品を開発する企業から、患者さんと共に医薬品を開発する企業へと発展していきます。タケダは患者さんの見識を取り入れ、リアルワールドデータを活用し、分析を生かして開発力を高めていきます。



A Conversation With Andrew Plump, M.D., Ph.D.

President, Research and Development

持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、 あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダの医薬品アクセスプログラムを通じた私たちの活動は、世界中の患者さんの保健医療の改善に役立っています。このプログラムは、十分な医療が受けられない地域に医薬品を寄付するだけの活動ではなく、地域での医療提供能力の強化を支援する活動でもあります。私たちは途上国を含めた各国における研究開発に投資し、地域での創薬を支援し、医療従事者に対する教育・訓練プログラムを行い、医療の向上につとめています。こうした地域の能力を強化させる活動は、私たちが貢献すべき患者さんに持続的なインパクトをもたらすことができます。

価値創出における最大の課題、 また、最大の機会は何ですか？

求められる価値は、患者さんによって、また地域によって異なり、1つの方法で全てが解決するわけではありません。私たちは必要な人材育成プログラムを効率的に実施し、求められる価値を創出していく必要があります。このため、私たちは各国の政府、保健当局をはじめとするパートナーと連携して各地域のニーズを把握し、これを満たすべく活動しています。



あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

R&D はグローバル市場を対象とします。イノベーションは私たちの周囲のあらゆるところで発生し、驚くべき速さで進んでいます。私たちは、最新技術に精通するのみならず、明日の革新的医薬品やソリューションを創出し、速やかに、そして自信をもって患者さんにお届けすることを目指しています。タケダは社内の研究拠点や R&D 人材に投資しつつ、幅広いネットワークを通じて、世界各地で芽生えつつあるイノベーションを伸ばす取り組みも行っていきます。

疾患領域 タケダは研究開発において、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、希少疾患、およびニューロサイエンス（神経精神疾患）の4つの疾患領域に注力しています。さらに、血漿分画製剤およびワクチンの研究開発に関する投資を行います。タケダのワールドクラスの R&D エンジン、タケダが注力する疾患領域における開発を進め、主な臨床試験の結果を得て、新薬承認申請や適応症の拡大を行っています。2018 年度にはタケダはパイプラインを拡充し、12ヶ月間で15の新規化合物のステージアップを達成し、17品目が新たに R&D ポートフォリオに入りました。

オンコロジー領域では、タケダは ALUNBRIG (brigatinib) を非小細胞肺癌の一種を有する成人患者の治療薬として欧州委員会 (EC) より販売許可を取得しました。また、日本と欧州連合 (EU) においてアドセトリス (ブレソキシマブ ベドチン) の適応追加申請の承認を得て、造血幹細胞移植

後の再発・進行のリスクの高い CD30 陽性末梢性 T 細胞リンパ腫の治療薬としても用いられるようになりました。消化器系疾患では、中等度から重度の活動期の潰瘍性大腸炎を対象として、エンタイビオ (ベドリズマブ) とアダリムマブを比較した第 IIIb 相試験において、エンタイビオ群の方が臨床的寛解率が高いとの結果が得られました。この試験は、再燃と寛解を繰り返す慢性の炎症が大腸粘膜に生じる進行性疾患である潰瘍性大腸炎の患者を対象として生物学的製剤を直接比較した初めての試験です。

希少疾患では、TAKHZYRO (lanadelumab) を I 型または II 型の遺伝性血管性浮腫 (HAE) をもつ 12 歳以上の患者の治療薬として米国食品医薬品局 (FDA) より承認を得ました。遺伝性血管性浮腫 (HAE) は男女ともに 5 万人に 1 人の割合で現れる遺伝性疾患で、本剤は同疾患の治療薬として承認された初のモノクローナル抗体製剤です。ニューロサイエンスでは、タケダは

米国 FDA より大うつ病治療薬トリンデリックス（ボルチオキセチン臭化水素酸塩）の医薬品承認事項変更申請の承認を取得し、急性うつ病における認知機能の一症状である処理速度に改善効果があることが明記された米国発の抗うつ剤となりました。

ワクチン開発における新たなマイルストーン

ワクチンは、18 世紀後半の登場以来、公衆衛生を大きく改善してきました。現在、ワクチンは毎年 200~300 万人以上の生命を救っています。タケダでは、世界でも最も公衆衛生ニーズが高い感染症に対するワクチンを開発しています。タケダのワクチンビジネスユニット (VBU) は、中低所得国の多くで課題となっている感染症に焦点を置いた開発パイプラインを構築しています。VBU が取り組む疾患（デング熱、ジカウイルス感染症、ノロウイルス感染症、チクングニア熱）はいずれも、医薬品アクセスの向上に向けた業績を比較評価する指標を示す Access to Medicines Index レポートに含まれています。



タケダのミッションは、これらのワクチンをアンメットニーズが最も高い国々でお使いいただけるよう、開発し承認を得て、世界中の人々の、健康の向上に必要な数百万回分のワクチンを生産する施設を社内で整えることにあります。タケダでは次の 3 つの感染症に対するワクチンの研究開発に注力しています。

- ・デング熱：世界で最も早いスピードで拡大し続けている蚊が媒介する疾患で、世界人口の約半数がデング熱の脅威にさらされています。世界保健機関 (WHO) が 2019 年に発表したグローバルヘルスに対する 10 大脅威の 1 つにデング熱が含まれています。タケダは現在、デング熱流行地域における 2 万人を超える小児および若年層のを対象としてデング熱ワクチンの臨床第Ⅲ相試験を実施中です。本試験の結果では主要評価項目を満たし、現在開発中のワクチンはデング熱への予防効果を発揮することが示されました。タケダは、ジンゲン（ドイツ）における新

たな生産拠点の建設への 1 億ユーロ以上の投資を含め、デング熱ワクチンの開発に積極的な投資を行っています。

- ・ジカウイルス感染症：タケダは、世界中の流行地域におけるジカウイルス感染症への取り組みを支援すべく、米国政府よりワクチン開発の助成先として選定されました。タケダが開発を進めているジカウイルスワクチンは、米国食品医薬品局 (FDA) よりファスト・トラック指定を受けました。現在、第 I 相試験のデータを解析中です。
- ・ノロウイルス感染症：ノロウイルスによる感染症の発症件数は年間 6 億 8,500 万件にのぼり、毎年 20 万人が死亡していると推定されています。タケダが開発中のノロウイルスワクチンの臨床第Ⅱ相後期有効性試験はこのほど完了し、解析結果の発表は 2020 年の見込みです。



A Conversation with Rajeev Venkayya

President, Global Vaccine Business Unit

持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダのワクチン事業では、世界全体に影響を及ぼす諸課題に取り組んでいます。私にとっては、これは持続可能な価値を創造することにほかなりません。私たちは、世界の人口の約半数を脅威にさらしているデング熱や、全ての人々が一生のうち数回罹患する可能性のあるノロウイルス感染症に対するワクチンの開発に向けて努力しています。これらの疾患や他の疾患に対して有効で安全なワクチンが開発できれば、私たちの活動は何人も何世代もの人々がメリットを享受することができ、本人や家族のみならず社会全体の生産性向上にもつながります。

価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

私たちは、科学的・技術的側面からワクチン開発が困難とされ、疾病負荷が高い感染症を対象とするワクチンの開発に力を入れています。ワクチンは小児を含む多数の健康な人々に用いる製品であるため、その安全性と品質に求められる水準はきわめて高く、これらの水準を満たすために要する時間と投



写真：国連財団

資はきわめて大きなものとなります。それだけのリソースと忍耐力をもつ企業はごく少数しか存在しません。私は、タケダがそのような企業の1社であることを誇りに思います。

あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

我々のワクチン事業により、タケダは世界に対し新たな貢献を提供できることとなります。タケダが今後、さらに多くの人々に製品をお届けすることができる可能性に身が引き締まる思いです。これは私たち全員にとって、名誉なことであると同時に責任を感じる活動であり、大きなチャンスとなる事業でもあります。



写真：国連財団

医薬品アクセス



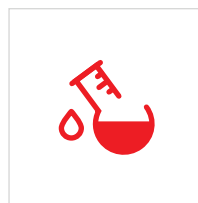
医薬品アクセス（Access to Medicine）はグローバルで組織横断的なイニシアティブです。保健医療システムが十分に整備されていない国々において、複雑な疾患や希少疾患に対し、革新的で人々の命を救う可能性のある医薬品アクセスを高める目的で取り組んでいる活動です。

タケダでは、「患者さん中心」を第一として活動しています。医薬品へのアクセスは世界中で実現すべき、と信じる理由はここにあります。ここ10年間で公衆衛生が向上し、科学的な発見が相次ぎましたが、世界中の人々、特に中低所得国の人々は、保健医療サービス、治療や予防法へのアクセスが整っていません。従来、アクセス向上に取り組む活動の大部分は必須医薬品を対象とされてきましたが、複雑な非感染性疾患(NCDs)の負担が拡大しています。世界には、がんをはじめとする死者数の多い疾患に対する保健医療アクセスが全くないか不十分な人々が数多く存在します。

タケダの取り組みは、医薬品アクセス活動のニューフロンティアといえますが、複雑な疾患や希少疾患のアクセス向上の改善には大きな課題があります。これらの疾患の診断、治療と管理はきわめて困難です。世界の多くの国・地域では、これら疾患のスクリーニング、診断と治療のニーズが未だ満たされていません。これらの疾患の啓発、予防と診断の技術をもつ医療従事者が不足しています。必要な設備の規模や質が不十分であり、革新的医薬品のサプライチェーンは整備されていません。経済的負担も大きな課題です。複雑な疾患や希少疾患の治療には革新的な医薬品が必要ですが、そのような医薬品の多くは多額の研究開発費を投じて作り出されています。このような高額な治療薬は生涯にわたって必要になることが多く、代替薬が存在しないことも少なくありません。

戦略とインパクト

このような課題に取り組むには、患者さんと保健医療システムに対する包括的な視点が必要です。タケダは、患者さんがたどるすべての過程に着目して革新的医薬品の開発から治療、さらにその後の活動を展開するとともに、各国・地域の保健医療システムやそのキャパシティにも目を向けています。患者さんへのインパクトを最大限に高めるため、下記のステップを展開しています。



・明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップ

このような課題には、タケダ単独では取り組むことができません。タケダは官民両セクターのパートナーと密接に連携して持続的な活動を展開し、この連携が患者さんの生活に良い影響を及ぼせるよう取り組んでいます。

・革新的なパートナーシップの枠組み

タケダは、全ての医薬品アクセスプログラムの指針とする Blueprint for Innovative Access を策定しました。これは、複雑な疾患や希少疾患のための革新的医薬品へのアクセスを高めるためのパートナーシップの取り組みに関する実践的フレームワークで、啓発・予防から患者支援までの患者さんがたどる過程の全段階において、各段階におけるキャパシティの構築や、治療薬を入手しやすい価格で提供するための革新的な仕組みなどに関するフレームワークを示しています。

基盤強化（キャパシティ・ビルディング）

タケダは医薬品アクセスが整っていないことを認識しており、十分なケアを提供するには、保健システムにはスクリーニング、早期診断と早期治療が行える医療人材が必要です。タケダはパートナーと協働し、患者さんのたどる過程の全段階にわたる保健医療システムの向上に取り組んでいます。

・患者アクセスプログラム

私たちの革新的な医薬品に対する早期アクセスの実現が求められていることを認識しています。そのため、タケダの医薬品のライフサイクルを通じて早期アクセスの計画策定と実行を優先課題としています。またタケダは患者支援プログラムを通じて革新的で協働的な資金調達モデルを構築し、医薬品アクセスを高めながら医学的な利点を高めるための取り組みを行っています。これは、患者さんが医薬品の費用の全額を自己負担できない場合であっても、必要な治療を完了できるようにするための取り組みです。

・インパクトを測定するための枠組み

タケダとパートナーが説明責任を果たすため、デューク大学と連携し、患者さんの生活改善をもたらすインパクトを一貫した方法で測定できるインパクトフレームワークを構築しました。

タケダは52の国と地域でプログラムを立ち上げ、患者さんの医薬品アクセスの改善に向けた活動を大きく進めてきましたが、行うべきことはまだ多くあります。私たちはこの基盤をさらに強化し、プログラムを拡大して疾患領域を広げ、より多くの患者さんに健やかで輝かしい未来がお届けできる国の数を増やせるよう活動しています。

125,000人以上

治療を受け生活の向上や生存期間の延長につながった患者さんの数

4,000人以上

より良い患者ケアに関する研修を受けた保健医療従事者とコミュニティ・ヘルスワーカーの数

110万人以上

支援を受けた医療従事者が、がんなどの非感染症疾患のスクリーニングを実施した患者さんの数

5位

2018年度の医薬品アクセスランキングにおいて前回より順位を10位上昇させ、5位に入りました。タケダの戦略の品質と目標、また活動の進展が評価された結果です。

52カ国・地域

患者さんを中心としたアクセスプログラムを実施した国と地域の数

明確な目標を定めた 持続可能なパートナーシップ

明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップは、タケダの医薬品アクセスのイニシアティブの基礎となります。複雑な保健医療システムを改善するためには多大な努力が必要で、一企業または一組織が単独では行えません。タケダは、グローバルおよび地域の医療専門家、学術機関、開発機関、民間非営利団体 (NGOs)、政府機関、医療従事者、患者団体や同業社との協働活動を通じ、アクセスプログラムが直面する最大の課題の一つが保健医療の全体像の把握であることを突き止めました。全体像が把握できていないために、活動が重複したり、非効率になったりしているのです。



明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップに向けた取り組みは、各国で経験豊かな個人や団体と協働し、具体的な問題の解決に向けたプログラムの策定や、既にあるイニシアティブの効率をあげ、患者さん、保健医療システム、地域社会に最大の価値を提供することができるようになります。タケダは、地域でのアクセスの課題に対して新たな視点を提供し、持続的な変化に向けたタケダの長期的戦略を支えてくれるパートナーを探し求めています。

タケダは 2018 年、Amref ヘルス・アフリカと連携して各国政府、国連の専門機関、ドナー・コミュニティ、NGOs や民間企業のグローバルリーダーらとの会議を開き、アフリカとアジアにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の推進に向けたベストプラクティスを検討しました。国連が掲げる 2030 年までの国際目標を達成するには、知識、経験、財政面の責任を共有するための効果的なパートナーシップが必要であることを改めて確認しました。タケダは今後も Amref ヘルス・アフリカをはじめとする団体と協働して持続的なエンゲージメントと長期的なコミットメントを継続し、保健医療システムの強化と患者さんの医薬品アクセスの向上を目指します。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成はタケダにとって最優先事項であり、その達成に必要な取り組みを長期的に継続することを約束します。この取り組みには、政策と規制の調整、きわめて重要な保健プログラムのサポート、複数のセクターにまたがるパートナーシップの促進などがあります。2030 年までにユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成するには、それぞれがコミットメントを継続し各自の責任を果たせるよ



キャパシティの構築： がん領域の取り組みの強化

ケニアにおいて、がんは死因の第 3 位の疾患です。サハラ以南のアフリカ諸国におけるがん対策では、がんの早期発見の促進が重要となります。タケダは地域のパートナーや米国国立がん研究所 (NCI) と連携し、ケニアの保健当局の指揮のもと、ケニアにおけるがんの診断、治療、患者サポートにおける課題を特定しました。

タケダは、これらの課題に取り組むため、地域の医学教育機関や NGOs とともに Integrated Cancer Care Curriculum (包括的がん医療カリキュラム) プログラムを立ち上げました。カリキュラムでは、これを履修する医療従事者の数、患者の自宅から診療所までの距離、治療選択肢に関する社会の理解、および定期的な検査の重要性について取り組むべき目標を設定しています。

革新的な研修コースと実施法により、対面での研修とモバイル機器を活用したオンライン学習を組み合わせ、医療従事者が研修とメンターによる指導を受け、知識を共有するシステムを整えています。この包括的がん医療カリキュラムは、2019 年末までに 10,000 人の医療従事者にトレーニングを実施することを目標としています。

このプログラムの継続は、タケダをはじめとするパートナーからのコミットメントが持続できるか否かにかかっています。タケダは、政府と密接に連携し、NCI のプログラムとして継続できるよう支援しています。『コメント : have made sure that ownership of the program sits with the NCI のところの背景がよくわかりません』

うにする、持続可能なパートナーシップ・プラットフォームが必要です。このような複雑な課題を解決するためには、政府のリーダーシップの下で、民間セクターの専門知識と NGO のミッションを最大化しながら共同で取り組む必要があります。こうして私たちが保健医療にもたらした進歩により、何千人もの患者さんの生活を変えてきましたが、今後さらに数百万人もの患者さんへの対応が待たれています。

革新的なパートナーシップの 枠組み：患者さんがたどる全ての過程で 保健医療システムへのアクセスを強化する Blueprint for Innovative Access

タケダは、医薬品アクセスプログラムの指針として Blueprint for Innovative Access を策定しました。これは患者さんのたどる過程の全段階において複雑な疾患や希少疾患に対する革新的医薬品へのアクセスを向上させることを目的とするパートナーシップ・アプローチに関する実践的な枠組みを示す指針です。

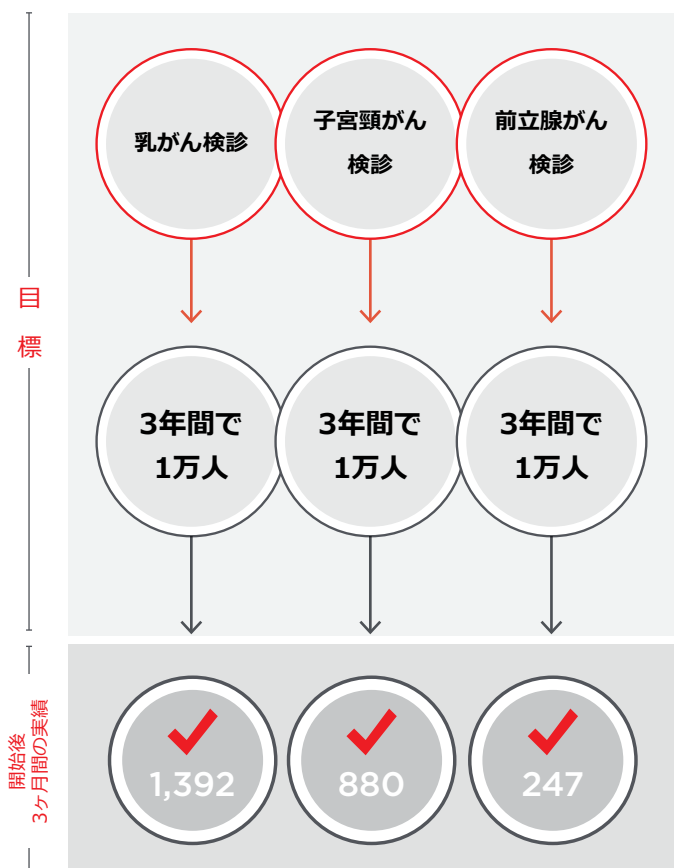
この Blueprint は、プログラムを所有し実施するパートナーとのコンソーシアムを地域で構築し、持続的な取り組みを行えるよう作成しています。この Blueprint に従い、現地における保健医療環境の把握からはじまり、疾患領域や対象国における問題や課題を明らかにした上で、地域に適した明確な目標を設定したプログラムを策定します。

強固なガバナンスと、論理基準、コンプライアンスと腐敗防止への取り組みが、タケダのアプローチに不可欠な要素です。タケダには、潜在的利益相反を確実にデューデリジェンスし、管理するための厳格なプロセスがあり、パートナーシップは正式な合意として文書化しています。



目標と進捗状況

ケニアのメル県は、Blueprint のパイロット実施先として、2019 年 2 月に選ばれました。Amref ヘルス・アフリカ、International Cancer Institute とタケダが地域のパートナーと協働で、メル県および周辺地域における非感染性疾患 (NCDs) に対する保健医療システムの強化に向けて、連携、協力およびリソースや専門知識の共有を行いました。



インパクト測定の枠組み

世界中の患者さんの保健医療を向上させるというタケダの目標を達成するには、インパクトを測定することが重要です。タケダ及びそのパートナーが説明責任を果たすために、測定は一貫性があり、透明性の高い、独立した方法で行わなければなりません。このため、タケダは、製薬業界、NGOs や政府機関でも用いられるような、患者さんの生活に対する明確なインパクトを独立して測定できる評価の枠組みの策定に取り組んできました。タケダはデューク大学と連携して Access to Health Impact Measurement Framework（医薬品アクセスへのインパクト測定の枠組み）を開発し、患者さんのニーズを継続的に評価し、必要な対策を速やかに、焦点を絞った形で行えるようにしつつ、プログラムが保健医療システムに及ぼす影響について広くモニタリングが行えるようにしました。

このインパクト測定の枠組みは、同業他社、保健医療機関、政府や NGO s の意見を取り入れて開発しました。タケダの目標は、製薬業界全体で患者さんの生活にもたらすインパクトを一貫した単一の測定モデルで評価する方法として実施することです。

この枠組みの目標の1つに、包括的なプログラムを特定し、一層の連携が必要な領域を明確にして、地域社会、社会や医療従事者を支え患者さんがたどるすべての過程を網羅する保健システムを強化し、効果的か

つ効率的なリソース配分が行えるようにすることにあります。タケダは、今後2年以内にこの枠組みを公開し、広く利用いただけるようにすることを目標に置き、パートナーと協力的な下検証を進めています。



患者アクセスプログラム：

革新的な患者支援プログラム

タケダの患者支援プログラム (PAPs) は、アジア、アフリカ、南米、中東、欧州の14カ国で実施中で、患者さんの治療へのアクセスを向上させつつ、治療の医学的メリットを最大限に高めるための革新的で協働的な資金供給モデルを採用しています。

このプログラムは、患者さんが治療費を全額払えなくても、治療を最後まで受けることができるようにしました。

保健医療の提供には各国内と国家間の両方で大きな格差があるため、患者さん一人一人に応じて価格を設定するというアプローチを採用しました。治療を提供するパートナーを通じて患者さん一人一人に応じて適切な支払い計画を決定する独立性のある新型評価を採用しました。支払い能力がない患者さんの一部については、PAPのほか、現地の医学会、慈善団体や NGOs からの寄付や金銭的サポートにより、医薬品を利用できるルートを探ります。

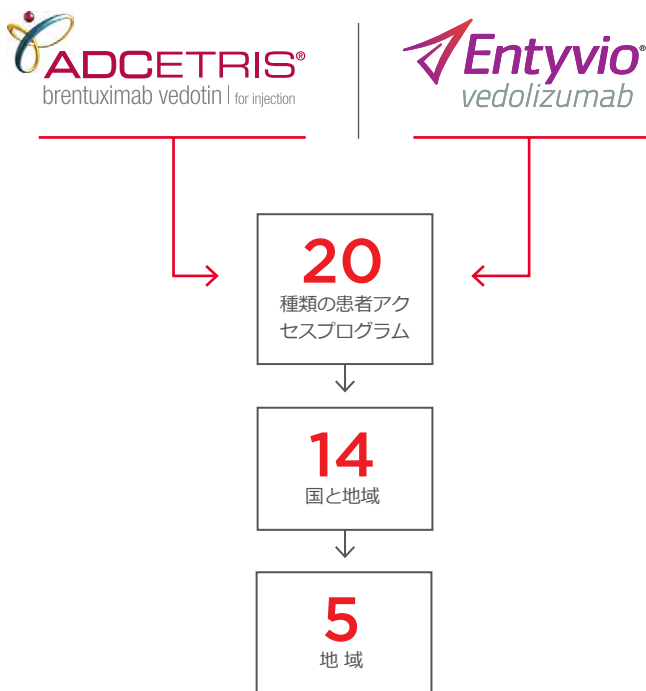
タケダのスペシャリティ医薬品をできるだけ多くの患者さんに届けながらも安全性と倫理基準を確保するには、この患者支援プログラムが誠実でなければなりません。私たちは、新しいプログラムの検討、承認、実施において細部まで行き届いた統制プロセスを制定し、協働的な資金供給イニシアティブの審査・承認を行う専任のガバナンス委員会も設置しています。




Vaccine Assistance Programs (VAPs) は、従来の PAPs の応用版として策定しますが、ワクチンは医薬品とは異なる特徴を持つため、異なるアプローチが必要です。ワクチンは、低価格の製品を多量に、短期間で提供する必要があります。数千人の人々に個別に設定した価格でワクチンを提供するため、従来の PAP よりも複雑になります。タケダのワクチンのインパクトとアクセスの拡大に向けた活動において、ワクチン支援プログラムは大きな意味をもちます。

開始以来、14 の国と地域の患者さんが悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」や潰瘍性大腸炎治療剤「エンタイビオ」をはじめとするタケダの革新的医薬品による治療を受けています。

アドセトリスとエンタイビオは最初に注力した製品ですが、PAP の対象医薬品を拡大し、世界的に負担が大きい疾患にも今後、取り組んでいきます。タケダの次のステップは、中所得国におけるワクチン PAP の開発です。



 タケダの革新的治療薬に対するアクセスとプログラムの詳細については、[医薬品アクセスのプログレスレポートをご参照ください](#)

保健医療システムが十分に整備されていない国々における研究開発能力の構築

途上国の多くは、若手医師や研究者が最新の研究開発施設があり医薬品開発のキャリアの選択肢が多い先進国に流出してしまうという課題を抱えています。学生は留学し、最先端の研究所で高度な教育を受けることができるため、海外でチャンスを得ると帰国しない学生は多く存在します。このことは、途上国における保健システムに大きな負担がかかっています。

才能ある医師や研究者が帰国しない理由の一つに、母国である途上国には生物医学研究が進められる技術や研究施設が不足していることが挙げられます。2018年、タケダはNGO団体である Seeding Labs とのパートナーシップ契約を締結し、タケダの社内で十分に活用されていない装置・機器を途上国の研究施設に提供し、研究能力の向上に役立つ活動を開始しました。

この Instrumental Access Program に参加した研究所の1つが、ジャマイカの西インド諸島大学天然物研究所 (Natural Products Institute) です。このイニシアティブへの研究機関の参加と機器の提供によって科学的進歩が見込まれ、教育資源が得られることで、研究に関する認識と高度な知識における10年の格差が解消されることが期待されます。

途上国でのR&D能力の構築は、地域の保健医療システムに大きな変化をもたらす可能性もあります。そこで暮らす医学専門家や研究者は、地域住民に影響を及ぼす特有の問題を解決することに強い関心を抱いています。彼らほど社会が直面しているその地域の課題の解決に適した人材はいません。このため、タケダの Instrumental Access Program は、必要性の高い機器の提供だけにとどまりません。タケダは医学専門家を対象とした操作法の研修を支援し、質問に対応し、タケダやパートナーが蓄積してきた経験を共有しています。



写真：国連財団

Instrumental Access Program

数字で見る成果

250 台の装置や機器を提供



20 校の大学



13 カ国





A Conversation with Ricardo Marek

President, Growth & Emerging Markets

**持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、
あなたが最も喜びに感じることは何ですか？**

私の仕事で最も満足を覚える点は、多くの人々の生活の向上に貢献する活動に参加していることです。タケダのグロース&エマージング マーケッツ (GEM) ビジネスユニットは、2050年までに世界の人口の85%をカバーする目標を立てています。タケダは、患者さんの生活を改善させる可能性のある革新的な医薬品を約50の国と地域に提供することに注力していますが、残念ながら保健医療へのアクセスが十分ではない人々がまだまだ多く存在します。この状況は、特に、この状況は、タケダがこれまで革新的な医薬品を開発してきた様々ながんや複雑な疾患、希少疾患の多くに見られています。私は、長期支援をコミットしているタケダの医薬品アクセスプログラムを非常に誇りに思います。私たちのアプローチは、全社的な意思決定のもとで行われ、組織全体に深く根ざした活動です。

**価値創出における最大の課題、
最大の機会は何ですか？**

GEMの活動地域は、患者ニーズが多様で、必要な保健医療の内容が国によって異なることが特徴です。私たちの目標は、診断、治療と管理が難しい複雑な疾患や希少疾患において、革新的な医薬品へのアクセスを常に向上させることにあります。GEMの活動地域では、啓発、予防、スクリーニング、診断と治療に必要な技術に大きなニーズがあります。また支払い能力の面でも大きな課題があります。複雑な疾患や希少疾患の治療には革新的な医薬品が必要ですが、多くの場合は代替品がなく、生涯にわたる治療が必要な患者さんも少なくありません。私は、最も複雑な課題にこそ最も革新的な解決法が必要と考えており、タケダは最も革新的な解決法を提供することにより、患者さんの生活に最大の効果を生み出すことができると考えています。これら



の課題は私やGEMの全員を奮い立たせ、患者さんの生活にインパクトをもたらす活動の原動力となっています。

あなたの仕事は、タケダが患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

私たちが策定したプログラムはいずれも、患者さんがたどるすべての過程において対象国の保健医療システムを強化することに焦点をおいています。このアプローチにより、がんをはじめとする非感染症疾患の検診を受けた患者さんは110万人を超え、また、12万5,000人以上の患者さんの治療を支援してきました。また、支援対象とした疾患領域を専門とする4,000人を超える医療従事者とコミュニティ・ヘルスワーカーに対する研修を行いました。私は、GEMの広域に及ぶ活動と、タケダの革新的な医薬品と、パートナーシップにより、アクセスを大幅に向上させ、患者さんの生活を大きく改善できると確信しています。

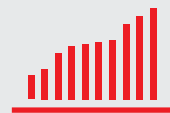
グローバルCSR プログラムと パートナーシップ

タケダのグローバルCSRプログラムと各機関・団体とのパートナーシップは、持続可能な社会の発展を促す企業市民活動を通じ、タケダの事業活動のインパクトをさらに拡大します。

タケダは、全ての事業活動において常に患者さんを中心に考えており、CSR活動においても、その考え方に基づいて取り組んでいます。タケダのグローバルCSRプログラムの重点テーマは、途上国・新興国における保健人材の育成と保健医療アクセスの強化を通じた疾患予防であり、国際機関やNGOなどのパートナーシップを通じた活動を展開しています。その一例としてタケダのグローバルCSRプログラムは、リプロダクティブヘルスと母子保健 (RMNCAH) に着目しています。世界の女性と子どもの健康を改善することは、国際開発コミュニティの最優先課題であり、また国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に健康に関する目標が掲げられていることから明らかです。タケダはグローバルCSRプログラムを通じ、中低所得国で多数報告されている母子の「予防可能な死」を減らすことで貢献したいと考えています。この重大な課題に取り組むため、タケダは世界中の全従業員を対象とした投票を行い、その結果を踏まえて新たなプログラムの実施を決定しています。2016年の開始以来、グローバルCSRプログラムはSDGsなどの国際的な規範が示す優先課題の改善に向けた活動を展開し、具体的な成果を挙げています。その成果は、質の高い診断・治療への患者アクセスの向上から、感染症の流行地域における予防接種の推進、医療従事者に対する研修、そして世界各地の保健システムの強化など多岐にわたります。

13

中長期的なグローバルCSR
プログラムの数



14

途上国における保健人材の
育成による疾病予防を目的とした
グローバルCSRプログラムの数



~20,000

2019年度にグローバルCSR
プログラムに投票した従業員数



現在、タケダは3~10カ年の寄付プログラムを14件実施中です。予防可能な死をなくすために保健医療人材の育成を継続し、また持続可能なサプライチェーンの構築を支援することで、医療・衛生用品の在庫切れや偽造医薬品により患者さんが治療を受けられない状態が生じることのないよう活動を進めています。

タケダは今後、焦点をさらに絞り、WHOのデータで指摘されている中低所得国で未だ大きな課題となっている感染症、母子健康や栄養状態への対策を強化していきます。タケダは、最も負担が大きくアンメットニーズも高い患者さんを中心に、グローバルCSRプログラム活動を行っています。

グローバルCSRプログラムに加えて、タケダはグローバルCSRパートナーシップを展開し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成に向けた世界各地の健康改善を目標とする官民パートナーシップを支援しています。例えば、タケダは「世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバル・ファンド)」と協働しています。タケダは今後も多国間パートナーやNGO、財団、政府間組織と共に活動し、全ての人々に役立つ持続可能な価値を創出し、世界中の患者さんにより健やかで輝かしい未来をお届けするというタケダの目標に向かって前進していきます。



写真：国連財団

財団による「はしか」予防接種のグローバル展開プログラムの現場 (ラオス) を訪問し、現地訪問を通じて患者さんを中心に考える活動の意義を学ぶ機会を得ました。

従業員による途上国支援現場への訪問 (Employee Participation Program)

タケダは、グローバルCSRプログラムの支援地域を従業員が訪問する Employee Participation Program (従業員参加プログラム) を実施しています。応募者がオンライン提出した応募書類を審査し、要件やダイバーシティを考慮した上で参加者を決定します。2017年には、10名の従業員が国連

インクルーシブな選択プロセス

タケダのグローバルCSRプログラムを通じて患者さんに最大限貢献するため、プログラムにおける意思決定を事業活動と同様に厳格に行っています。タケダにとって正しいプログラムを選択するプロセスには、約80カ国で活動する多様な従業員が参画しています。周囲の従業員への波及効果も含めた、従業員のモチベーションの向上も図っていきます。候補となるプログラムのリストを作成するため、CSRに関する専任部署が、様々なNGOや政府間組織をパートナー候補として選択します。次に、従業員向けのプログラム説明会、イントラの特設ページなどを通じ、候補となるプログラムに関する情報を共有し、世界中の従業員を対象とした投票を実施します。2019年には、タケダの約2万名の従業員が投票し、5つの新たなグローバルCSRプログラムを決定しました。



写真：国連財団

2019年度のグローバルCSRプログラム



パートナー：シティ・キャンサー・チャレンジ (C/Can)

実施地域：全世界

総予算：10 億円

期間：5 年間

シティ・キャンサー・チャレンジについて：シティー・キャンサー・チャレンジは都市ベースのパートナーシップイニシアティブです。官民セクターのステークホルダーが協働して、がんソリューションの構築・計画・実行方法を変えることで質の高いがん治療へのアクセス向上を目指します。このアプローチは、都市がグローバル、リージョンおよび地域パートナーの支援を受け、地域特有の状況を把握した上でデータ駆動型のソリューションを構築することで、国レベルのインパクトを生み出し、がん治療を推進するという基本原則に基づいています。

プログラム内容：参加型の包括的アプローチにより、官民セクターが結集し、質の高いがんのケアや治療を進め、保健医療システムの強化を実現します。10 都市において持続可能ながんの解決策の構築、計画および実施を支援することで、2023 年までに 8,000 万人の人々にインパクトを与えます。



写真：C/Can



Drugs for Neglected Diseases Initiative

パートナー：DNDi

実施地域：アフリカ、アジア、中南米

総予算：10 億円

期間：5 年間

DNDi について：DNDi は非営利研究開発組織で、リーシュマニア症、フィラリア感染症、ヒトアフリカトリパノソーマ症（アフリカ睡眠病）、シャーガス病、マイセトーマ（菌腫）などの顧みられない熱帯病、および小児 HIV や C 型肝炎で苦しむ顧みられない患者さんのための新たな治療薬の開発に取り組んでいます。DNDi は設立以来、8 つの新たな治療法を開発し、患者さんに届けています。内臓リーシュマニア症のための一連の併用療法、2 種類の抗マラリア配合剤、および DNDi による新規化合物からの開発が初めて成功したフェキシニダゾールなどです。フェキシニダゾールはアフリカ睡眠病の両ステージに有効な治療薬として 2018 年に 欧州医薬品庁 (EMA) から 推奨されました。

プログラム内容：目指すのは、子供や家族の人生を一変させること。顧みられない患者さんが、疾患が流行する国の特に僻地において、質の高い診断・治療にアクセスできるよう支援し、命を救い、病気の進行を予防する活動を行います。DNDi は、アフリカ睡眠病、シャーガス病、リーシュマニア症、オンコセルカ症、およびマイセトーマの 5 つの顧みられない熱帯病 (NTDs) を対象としています。これらの疾患は患者さんの生命や生活の質に大きく影響を及ぼすにもかかわらず、有効な診断と治療が十分に提供されていないため、本プログラムではその状況の改善を目的としています。



写真：DNDi



パートナー：シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク
実施地域：アフリカ、アジア、カリブ諸国、ヨーロッパ、米国
総予算：10 億円
期間：5 年間

シリアスファン・チルドレンズ・ネットワークについて：

シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク (SeriousFun Children's Network) は、深刻な病気を抱える子どもたちとその家族を対象とした無料で参加できる 30 のキャンプとプログラムからなる世界的なコミュニティです。このネットワークは医療に特化したキャンプの分野を主導しており、50 カ国を超える国々の、100 万人以上もの子どもたちや家族に人生を変える経験を提供しています。メンバーである各キャンプは、寄付金などによって運営される独立した非営利団体で、患者さんの家族への費用負担を求めずに、すべての子どもたちを支援します。

プログラム内容：グローバルネットワークに向けた新たな革新的なプログラムを計画し、拡大します。また、子どもやその家族の生活におけるキャンプによる影響を追跡調査し、評価を実施することで、さらにニーズに応えられるようプログラムを改善し、ネットワーク全体を通して医療支援体制を構築することを目的としています。



写真：シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク



パートナー：ユニセフ
実施地域：全世界
総予算：10 億円
期間：5 年間

ユニセフについて：ユニセフ (UNICEF：国際連合児童基金)

は、すべての子どもの権利と健全な成長を促進するために活動する国連機関です。現在約 190 の国と地域で、多くのパートナーと協力し、その理念を様々な形で具体的な行動に移しています。特に、最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置きながら、世界中のあらゆる場所で、すべての子どもたちのために活動しています。

プログラム内容：ドローン関連を含む 25 の医療・保健スタートアップに投資し、革新的ソリューションを実現・拡大していきます。さらに、子ども向けに人工知能をベースとした感染症アウトブレイクの予測モデルの開発を進め、スケールアップを行います。



写真：ユニセフ



パートナー：国連財団

実施地域：サハラ以南のアフリカ諸国

総予算：5.5 億円

期間：5 年間

国連財団について：国連財団は、世界の課題に取り組み、全人類の恩恵のためにあらゆる機会を活かす活動を支援します。国連財団は、コミュニティを構築し、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を含む国連とその優先課題を支援するためのイニシアティブを生み出す活動をしています。

プログラム内容：予防接種とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現のため、アウトブレイクへの対応を可能にする疾病監視体制の改善とデータ活用を通じて、サハラ以南のアフリカ諸国の保健システムを強化することを目指します。強化された予防接種プログラムにより、一次医療を強化し、プログラム実施国のユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を促進することで、より多くの子どもたちに恩恵を届けます。



写真：国連財団

グローバルヘルスのリーダーインタビュー

タケダの「グローバルヘルスのリーダーインタビュー」では、グローバルヘルスの先駆者や思想的リーダーが主な課題に関する個人的見解や将来に向けた展望を語り、重要な課題に取り組む上でタケダとのパートナーシップの重要性について述べています。これらのインタビューは、社内外の人々にグローバルヘルスにおける課題やソリューションについての関心を高め、またタケダが支援するプロジェクトがもたらすインパクトや、タケダとの協働によって創り出される価値についてお伝えしています。



ラジ・パンジャビ博士

ラスト・マイル・ヘルス
共同創業者・CEO

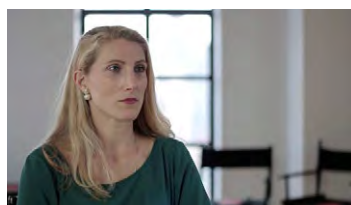
[詳しくはこちら >](#)



ピーター・ピオット教授

ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院
学長

[詳しくはこちら >](#)



バネッサ・ケリー博士

シード・グローバルヘルス
共同創業者・CEO

[詳しくはこちら >](#)



ヘンリエッタ・フォア氏

ユニセフ事務局長

[詳しくはこちら >](#)

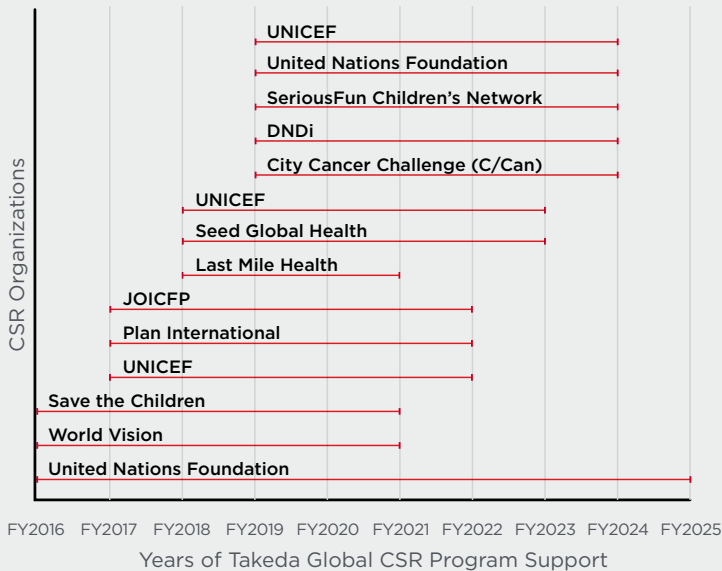
インタビューの
視聴はこちらから >



グローバルCSRプログラム

変化をもたらす活動にフォーカス

2019年度にタケダの従業員が選んだ5つのグローバルCSRプログラムは、既に実施中の9つのプログラムと共に、タケダのグローバルCSRプログラムとして開始されています。



途上国・新興国における
保健人材の育成を通じた
疾病予防

2016~25年
にわたり少なくとも
1700万人以上に貢献

グローバルCSRプログラム



小児の「はしか」予防接種のグローバル展開プログラム

サハラ以南のアフリカ諸国における予防接種とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの強化



アフリカの妊産婦と女性の命を守る



深刻な病気を抱える子供たちを対象とした無料キャンプ



南スーダン・シリア難民を対象とした包括的保護プログラム



「人生最初の1000日」への保健・栄養プログラム

サハラ以南のアフリカ諸国における保健システムの強化

イノベーションと最先端テクノロジーによる医療アクセス改善



サハラ以南のアフリカ諸国における医療専門家5,000人養成プログラム



顧みられない熱帯病5疾患に対する治療と診断へのアクセスを拡大



地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム



5年間で387,500名の地域住民へ母子保健教育、研修とサービスを提供



10都市において持続可能ながんの解決策の構築、計画および実施を支援



世界で8,000人のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを養成

今後の活動

すべての人々にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成するには、タケダの企業市民活動の考え方を大きく変える必要があります。タケダはCSRパートナーと共に新たな仕組みを模索し、地方自治体レベルの課題に取り組んでいきます。CSR活動に伴うグローバルヘルスリーダーとのパートナーシップによって、タケダは持続可能で柔軟な資金調達のソリューション提供を考えています。例えば、地方自治体が課題分野の専門家やメンター、イノベーションプラットフォームへのアクセスを可能とするほか、スケーラビリティに対する道筋を示したり、地方自治居合で企画・管理できるような革新的な解決方法を提供するなど多くの国々が自立できるようになることを期待しています。

その他のグローバルCSRパートナーシップ

従業員が選んだプログラム以外にも、タケダは下記の活動を支援しています。

タケダ・イニシアティブ2ではアフリカの中でも特に支援を必要とする国々において出生前後のケアにおけるHIV、結核およびマラリアの対策を統合した活動に2020年から5年間にわたって年間2億円の寄付を実施します。この取り組みは、「世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）」を通じてアフリカの保健医療人材の育成を目的として10年間にわたり年間1億円の寄付を行った「タケダ・イニシアティブ1」の後継プログラムです。

タケダが支援を行うタイミングは極めて重要であったと考えています。HIV、結核とマラリアへの対策は近年で大きく進歩しましたが、その後の資金不足や薬剤耐性株の出現など新たな脅威が生じ、患者さんが増加に転じたからです。2030年までにこれら感染症を根絶させるというSDG目標の達成が危ぶまれる状況になっていました。世界では、毎日1,000人近くの思春期女児や若年女性がHIVに感染し、2分に1人の子どもがマラリアで死亡しています。また結核は、世界で最も死亡数が多い感染症です。妊婦ケアの質が上がり、治療にかかる費用が低減できれば、各国はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に近づけると考えています。

リレー・フォー・ライフ（RFL）は、世界的ながんの制圧を目指したチャリティ活動です。タケダは、RFLを主催するアメリカ対がん協会（ACS）と協働し、2020年までにRFLの活動地域を46カ国以上に拡げ、全世界でがん患者さんへの支援を強化することをサポートしています。

デジタル出生登録プログラムは、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンと協働し、ケニアの出生登録率が低い地域において、デジタル機器を用いた定期健診促進や、保健医療に関する意識啓発を通じた出生登録を推進する活動を支援しています。子どもたちの基本的人権を保護するとともに、ワクチン接種などの保健医療サービスを受取できる仕組みを整え、保健医療アクセス改善に貢献しています。



写真：ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院

Takeda Chair in Global Child Health

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院における教授職

タケダは、最先端の研究を通じて、世界中の患者さんの人生をより良くするための医薬品ワクチンをお届けしています。この活動の一環として、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（LSHTM）に300万ポンドを寄付し、Takeda Chair in Global Child Healthの教授職を設置しました。この教授職は、中低所得国における、約530万人の小児死亡の減少に向けた研究を支援し、100カ国以上におけるLSHTMの小児の健康に関する研究に重要な役割を果たします。





A Conversation with Haruhiko Hirate

Corporate Communications & Public Affairs Officer

持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダで働く全ての人々にとって、疾病予防に貢献する機会を得ることが私たちの原動力となります。健康な人々の健康を維持することは極めて重要であり、これには健康政策が重要な役割を果たします。タケダは、政治的な立場に立ち、私たちが患者さんに役立つと信じる保健医療システムの改善策を提案することを恐れません。患者さんや保健医療システムを整備し、疾病予防に最善をつくしても、人々は病気になります。日本は、数十年前にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（国民皆保険制度）を実現しました。制度にはまだ整備中の部分がありますが、日本では全ての患者さんが保健医療にアクセスできます。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジは、すべての人々が経済的負担に苦しむことなく保健医療にアクセスできるようになってはじめて実現します。ゆえにアクセスは極めて重要です。官民連携や NGO とのパートナーシップを通じ、タケダは保健医療アクセスが十分に整備されていない国々での支援に努めてきました。タケダの価値観は、私たちがいかに行動すべきかを指し示す道標となっています。「誠実」を価値観の中心に置く企業として、タケダは世界中の課題解決に貢献しています。

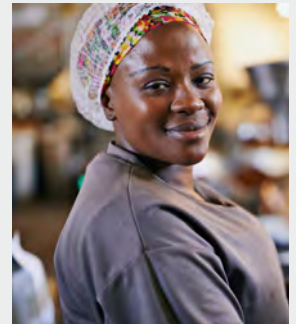
価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

タケダは、私たちの価値観、従業員や企業文化、また私たちの革新的な製品や、世界中で展開している多くのパートナーシップを通じて、患者さんのために持続可能な社会を強化する一助となるべく存在していると強く考えています。ヘルスケア製品やソリューションをお届けする企業として、私たちは保健医療アクセス、医療従事者の育成や水の衛生管理を支援するほか、自然災害に見舞われた地域を支援し（Appendix をご参照ください）、感染症の拡大、食料や水の不足、薬剤耐性株の発生原因となる環境汚染や地球温暖化の防止と緩和に向け、できる限りのことをしたいと考えています。私たちの目の前にある大きな課題として、疾病予防につながるワクチンや治療をもたらす革新的な医薬品を作り出すためには高度な科学研究が必要である一方、多くの国では保健医療システムが大きな財政難に陥っているという現状があります。



あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

タケダの R&D は、将来、患者さんに最高の治療をお届けするために不可欠な要素です。また私たちは、患者さんを中心とした活動を強化するにあたり、企業の社会的責任 (CSR) に力を入れています。タケダにとって、CSR は私たちの活動の不可欠な要素であり、タケダに深く組み込まれ、最高レベルのマネジメントでサポートされています。タケダのグローバル CSR プログラムは従業員が選択し、世界中の熱意ある革新的な組織とのパートナーシップを通じて、保健医療、疾病予防、医療従事者や保健人材の育成に大きなインパクトをもたらしています。これらの活動に併せてタケダは医薬品アクセス戦略を展開し、タケダの医薬品とソリューションを提供しています。



写真：C/Can

グローバル CSR フォーラム

タケダのCSR活動への取り組みとして、2019年にタケダとしては初のグローバルCSRプログラム・パートナーシップ・フォーラムを開催しました。35の国際NGOや国際機関の代表者がタケダの従業員と一同に会し、共有価値の創造とパートナーシップの機会に関する主な課題を学び、議論を交わしました。フォーラムでは、タケダと主な開発パートナーとの間で建設的な対話を行い、さらなる連携の道を見出しました。具体的には、タケダがそのグローバルCSRプログラムの背景にあるビジョンと戦略をステークホルダーに説明するほか、ステークホルダーが世界の保健医療における優先課題を説明し、タケダの2020~2030年度のCSR戦略に向けた情報を提供するなど、双方向の対話が行われました。プラン・インターナショナルやセーブ・ザ・チルドレン、シード・グローバルヘルス、ワールド・ビジョンによるパネルディスカッションが行われ、それぞれの知見を共有しました。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、GAVI、ユニセフおよび世界食糧計画(WFP)からの参加者と世界の保健医療の優先課題を語り合うパネルディスカッションも行われました。

CSR タウンホールミーティング

タケダの従業員は、毎年、グローバルCSRプログラムを選択する重要な役割を果たしています。従業員の各プログラムに対する見識を深めるために、CSRチームは東京、チューリッヒとボストンでタウンホールミーティングを開催しました。東京ではワールド・ビジョンが参加し、アフガニスタンでの母子保健プログラムに関する発表を行い、またチューリッヒでは2019年度のグローバルCSRプログラムの詳細が発表されました。米国マサチューセッツ州のレキシントンとケンブリッジでは、シード・グローバルヘルスとラスト・マイル・ヘルスによる活動報告を受けました。タウンホールミーティングに参加した従業員は、タケダが世界各地で支援している活動に誇りを持ち、2020年度のセッションに期待を寄せています。



タケダのコミットメント



グローバル行動計画の立ち上げ

タケダのグローバルCSRパートナーシップは、SDGの目標3「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けた活動強化を支援することを目的としています。このため、タケダは第74回国連総会に招かれ、グローバル行動計画の採択に立ち会いました。国連総会では、12の多国間支援団体が、SDG目標3の達成に向けたサポートの強化を協力して実施することを発表しました。国連総会では、ドイツ、ガーナ、ノルウェーのリーダーのほか、GAVI、グローバル・ファイナンス・ファシリティ、グローバルファンド、国連合同エイズ計画 (UNAIDS)、国連開発計画 (UNDP)、国連人口基金 (UNFPA)、国連児童基金 (ユニセフ)、国際医薬品購入ファシリティ (UNITAID)、国連女性機関 (UN Women)、世界銀行、世界食糧計画 (WFP) および世界保健機関 (WHO) のリーダーも出席しました。タケダはこの歴史的な会議に招待される機会を得ました。

国連総会のイベント

国連総会は、世界各地のハイレベルの代表が集い、最も危機が差し迫った地球規模の課題に対する解決策を検討します。2019年、タケダは、国連総会のハイレベル会合のサイドイベントとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと資金調達に関するイベントを開催し、現在の取り組みを評価するとともに、さらなる進歩を促すことを目標とした発表が行われました。タケダは、デベックス社と、タケダのグローバルCSRプログラムパートナーであるシード・グローバルヘルスとの共催で、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向け総力を結集：医療人材への投資」と題したパネルディスカッションを行いました。イベントには、各国政府、基金・もしくは国際NGO、多国間支援団体およびメディアから180名が参加しました。タケダのコーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ・オフィサーの平手晴彦が開会の辞を述べ、ルワンダの保健大臣のダイアン・ガシュンバ博士、WHOのUHC担当エグゼクティブ・ディレクターのピーター・サラマ博士、米国のグローバルAIDSコーディネーターのデボラ・L・パークス大使、シード・グローバルヘルスのCEOであるバネッサ・ケリー博士がパネリストを務めました。

タケダはグローバルCSRパートナーシップの仕組みを通して、グローバルヘルスのリーダーとの連携をさらに強化し、全ての人々により健やかで輝かしい未来をより早くお届けできるよう活動していきます。



写真：武田薬品工業/L HARA



国連総会におけるパネルディスカッション
「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向け総力を結集：医療人材への投資」



A Brighter Future Through a Better Workplace

IN THIS CHAPTER

- ・グローバル・タレント・マネジメント
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・労働安全衛生

Overview



タケダは、患者さんへのゆるぎないコミットメントを示す グローバルなバイオ医薬品のリーディングカンパニーへと成長しました。

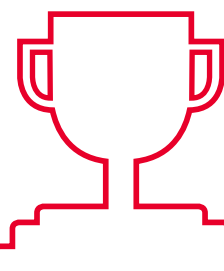
この成長は、世界各地で働く献身的な従業員がいたからこそ果たせました。タケダのミッションを継続し、将来に向けてさらに成長するには、私たちは優れた手腕と明確な目標をもつ多様なリーダー人材を獲得、育成し維持しなければなりません。これには、それぞれの従業員の貢献が評価されるインクルーシブで安全な活気あふれる環境が必要です。このようにして、タケダのバリューすなわち、タケダイズムと Patient, Trust, Reputation, Business に基づき、タケダはその独自の文化をさらに育んでいきます。

タケダは、従業員を支援するアプローチを通じて、全従業員がそれぞれのポテンシャルを最大限に発揮し、タケダでのキャリアを伸ばしていけるような、活気あふれる環境を整備しています。タケダは、約 80 カ国に拠点を持ちます。タケダは、様々な経験、背景や見解をもつ人々の力を結集して、革新的な医療の実現に向けて歩みを進めています。多様性はタケダがもつ強みであり、私たちが貢献すべき患者さんにとって大きなメリットとなります。

優れた職場の構築に向けたタケダの取り組みは、評価機関からも高く評価され、2019 年には「Global Top Employer」に認定された 14 社の 1 社として 3 年連続で評価されました。Global Top Employers は、トップ・エンプロイヤーズ・インスティテュートが毎年優れた人事制度を有する企業を認定するもので、10 項目の評価に基づき、従業員が職務的、個人的に成長できる最適な環境が整えられた企業が認定されます。

Global Top Employers 評価項目

- 1 Talent Strategy (人材戦略)
- 2 Workforce Planning (人員計画)
- 3 Talent Acquisition (人材採用)
- 4 Onboarding (入社時オリエンテーション)
- 5 Learning and Development (能力開発)
- 6 Performance Management (パフォーマンス・マネジメント)
- 7 Leadership Development (リーダーシップ開発)
- 8 Career and Succession Management (キャリア開発および後継者育成)
- 9 Compensation and Benefits (報酬・福利厚生制度)
- 10 Culture (文化)



グローバル・タレント・マネジメント



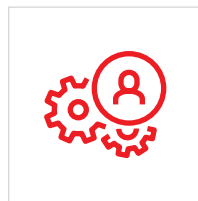
研究主導型の企業として、一人ひとりが違いを生み出す

タケダはタレント・マネジメントを積極的に行っています。タケダで働く全ての人々には、それぞれが提供した貢献によって評価されます。人材育成は優先事項であり、高い可能性を持つ人材を発掘し、質の高い対話（クオリティ・カンパセーション）を行い、新たな機会に備えて後継者を育成することを重視します。タレント・マネジメントは、人事部門、上司、そして部下とが、継続的に一体となって取り組みます。組織目標やバリュー、そして責任をしっかりと理解した従業員によってタケダの成功がもたされます。私たちは、上司と部下が明確な目標を設定し、頻繁にきちんとしたコミュニケーションを行うことで信頼関係を構築し、事業を牽引するためのツールを開発しました。

例えば、タケダのリーダーに求められる4つの要素を以下の通り定義しました。

- ・ 患者さんへの貢献、社会との信頼関係構築、レピュテーションの向上、ビジネスの発展を実現する革新的な方策を見出すため、会社全体を見渡す戦略的思考を実践する
- ・ 組織を成長させることに従業員がモチベーション高く取り組める環境を作る
- ・ 最も重要な優先事項を絞り込み、優れた成果を導き出す
- ・ 現在および未来のために、組織の能力を向上させる

従業員のパフォーマンスについて話し合うことは、タケダのタレント・マネジメントのプロセスで重要な側面の一つです。タケダは「クオリティ・カンパセーション」と呼ばれる考え方にに基づき、従業員同士でフィードバックを提供し、また受け取る環境を構築しています。このクオリティ・カンパセーションの取り組みを通じ、上司と部下との継続的な対話を促し、目標を設定し、強みを活かし、開発課題と明確にし、能力の向上を目指す環境づくりを行っています。タケダは、



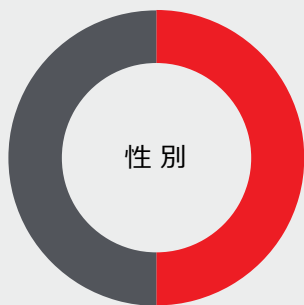
頻繁な(またはリアルタイムの)対話を行い、部下が上司にフィードバックすることも推奨しています。このプロセスにより、上司も部下もともに成長することができます。

もうひとつの重要なツールとして、タケダの従業員がどのような気持ちで働いているかを評価する仕組みがあります。タケダに新たに入社する人々や、タケダを退職する人々が、どのように感じているかを調査します。また頻繁に全社的な調査を行い、フィードバックを求め、改善が必要な分野をあきらかにしています。

人材 AT A GLANCE

約 **50,000** 人

従業員数



性別

50% 女性

50% 男性



人材開発の取り組み

タケダの事業の成功は、常に新しいチャレンジを続けられるかどうかにかかっています。タケダは、従業員が学び、キャリアをさらに伸ばせる機会を提供することに力を入れています。これにより、現在の活動を優れたものとすると同時に、将来に向けた準備も進めています。

私たちは、各従業員の現在のパフォーマンスのみならず、将来のポテンシャルも評価する「トーキング・タレント(Talking Talent)」と呼ばれるプロセスで、組織内の人材のポテンシャルを把握しています。一人ひとりに焦点をあてるクオリティ・カンバセーションと並行して、適切にタレントレビューを行うことで、タレントプールの質を測定しています。これにより、差し迫った人材ニーズに対応できるとともに、タケダのビジョンに沿った長期ニーズにも備えることができます。またタケダは、これらのレビューをグローバルな人材育成に役立てています。豊富な人材を備え、後継者の育成を行いながら、従業員が目標を到達できるような環境づくりを行っています。

タケダは、様々な人材育成プログラムを実践しています。

- ・プレジデント・フォーラム：CEO と経営幹部が当事業を牽引する影響力のある未来のリーダーの育成に時間を投資する、タケダの最重要育成プログラムの一つで、世界中からシニアリーダーが集い、事業上の課題に取り組み、CEO と経営幹部 (Takeda Executive Team, TET) に提案します。
- ・アクセラレーター・プログラム：高いポテンシャルを持つ従業員向けの、キャリアの早い段階から行う部門横断的なプログラムで、地域をまたぐアサインメント、メンタリング、学習イベントを通じて育成しています。現在 30 名が参加し、TET によるサポートを受けています。

- ・グローバル・インダクション・フォーラム：最近入社したシニアリーダーへの入社研修で、CEO や経営幹部のファシリテーションのもと、タケダの歴史、企業文化、価値観と伝統について学び、伝統を守りつつ社会との信頼関係を醸成する責任感の醸成を目標としています。また、グローバル・インダクション・フォーラムは、シャイアーとタケダとが統合し一つの企業文化を確立するため、双方のリーダーが互いに協力し、価値観とビジネスモデルを共有する場にもなっています。世界的な企業として、タケダが事業を展開する地域のそれぞれで異なる人材ニーズを満たすことが重要です。このため、タケダが事業を展開する約 80 の国と地域で、多様な学習の機会を提供しています。タケダは、マサチューセッツ工科大学や、INSEAD (欧州、アジアと中東にキャンパスをもつ経営大学院) などの教育機関とのパートナーシップを通じて、従業員に学習機会を提供しています。



A Conversation with Padma Thiruvengadam

Chief Human Resources Officer

持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダで働く人々は、タケダの成功のカギを握っています。タケダは、その人材プラットフォームにより、人材の能力強化や、企業文化に命を吹き込む職場環境の構築を行っています。タケダは、高い目的意識を持った人材を惹きつけ、キャリア形成に役立つユニークな経験を積める機会を提供できるよう務めています。このような機会によって、従業員が自信をもち、患者さんの生活に変化をもたらす活動に集中し、私たちが暮らし、働く地域社会にインパクトをもたらせるようになります。

価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

約 80 の国と地域で約 5 万人が働くタケダは、多様なスキルと経験をもつ人材の集まりです。このことは従業員のもつ視点、アイデアやアプローチが、タケダが事業を展開する市場や、私たちがサービスをお届けする患者さんの多様性に対応できることを意味しており、タケダにとって大きな力となります。しかしこの多様性のため、1 つの方法で全てに対処することはできません。そのようなことをすれば各自がもっている可能性を制限してしまうからです。私たちはリーダーとして、多様性のあるチームのマネジメントは容易ではなく、高いレベルのスキルが必要であることを知っておかねばなりません。

あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

タケダの意志決定における「Patient, Trust, Reputation, Business」という枠組みは、私たちの行動の礎にあり、タケダを特徴づける大きな要素です。タケダはこの意志決定の枠組みを全ての行動に用い、全てのプロセスを「これは患者さんにとって正しい判断だろうか？」と問いかけるところから始めています。この問いかけは、あらゆるレベルの人材の採用、育成と確保においても中心となります。また、この問いかけは、タケダの人材プラットフォームを構築する際の指針となり、それぞれの従業員が、患者さんに最高の製品をお届けしつつ、各自がそれぞれの最高のポテンシャルを発揮する原動力となります。

シャイアーの統合

シャイアーをタケダに統合する際、全ての従業員がバリューと意志決定の枠組みを理解し、統合した組織においてこの枠組みが用いられるよう活動に取り組んでいます。この取り組みは、One Takeda への移行を速やかに行うという目標に効果的です。この活動の一例として、私たちのミッション、ビジョン、バリューと経営理念の理解を共有するための従業員向けのワークショップを開催しています。このワークショップは、統合後の環境での成功に必要な研修を提供することと併せ全社を挙げて実施中です。グローバル・インダクション・フォーラムは、全てのリーダーに対して一体感を感じさせる重要な機会です。統合を加速するため、CEO は各地域のリーダーシップチームと共に各地でタウンホール・ミーティング

を定期的に行い、タケダの目標、戦略ロードマップや期待されるリーダーの役割を説明しています。

私たちは現在、業績管理、職務レベル、人材評価や報酬計算式などのグローバルな枠組みを策定中です。私たちは、各地域のニーズにあった事業活動が行えるよう配慮しています。私たちは、人材育成や学習プログラムを統一し、両組織の良いところを活用し、相互に強化できるよう取り組んでいます。新たな環境においてパフォーマンスの評価方法を理解したいと考える従業員のために、統合後の数カ月間は、上司と部下の間の対話の頻度と質を高めるための「クオリティ・カンバセーション」と称するパフォーマンスマネジメントの基本概念をグローバルに展開しています。

ダイバーシティ& インクルージョン



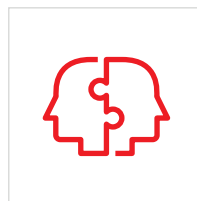
**タケダは、私たちが貢献すべき患者さんが多様であるのと同様に、
多様な従業員が活躍でき、創造性や革新性を発揮できるよう努めています。**

本当の意味でのダイバーシティは、世界の様々な課題に、より効果的に対応するために不可欠な要素です。このため、従業員の個々の意見や才能を活かすために、従業員が受け入れられ、自信を持ち、活気にあふれるインクルーシブな環境の創出を目指しています。これにより、患者さんやタケダの医薬品を待ち望んでおられる医療関係者の皆さん、コミュニティに貢献するための革新的なアプローチを見出すことができます。これは、私たちが最高のポテンシャルを引き出す方法でもあります。

タケダは、従業員一人ひとりが性別、年齢、国籍、人種、宗教、信条、障がい、セクシャル・オリエンテーション、ジェンダー・アイデンティティ、ライフスタイルに関わらず、それぞれの強みや能力、熱意に応じた成長の機会を提供できる企業であることを目指しています。

タケダではダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを進めていますが、さらなる促進が必要です。日本では、女性管理職比率をさらに上げる目標を立てています。タケダは、全社的にダイバーシティ&インクルージョンの促進に向けた下記などの取り組みを進めています。

- ・ジェンダー、人種/民族、セクシャル・オリエンテーションおよびジェンダー・アイデンティティおよび米国でのミリタリーステータスなどをテーマとする社員ネットワークを設立
- ・ダイバーシティ&インクルージョンに関するセミナー、研修、従業員プロジェクトを実施
- ・フレキシブルワークの促進
- ・女性従業員を対象とした人材開発プログラム
- ・LGBTQイベントの支援・参加、LGBTQ啓発セッションを全世界で開催



38%

グローバルにおける
女性管理職比率¹



¹シャイアーの買収によるデータを除きます



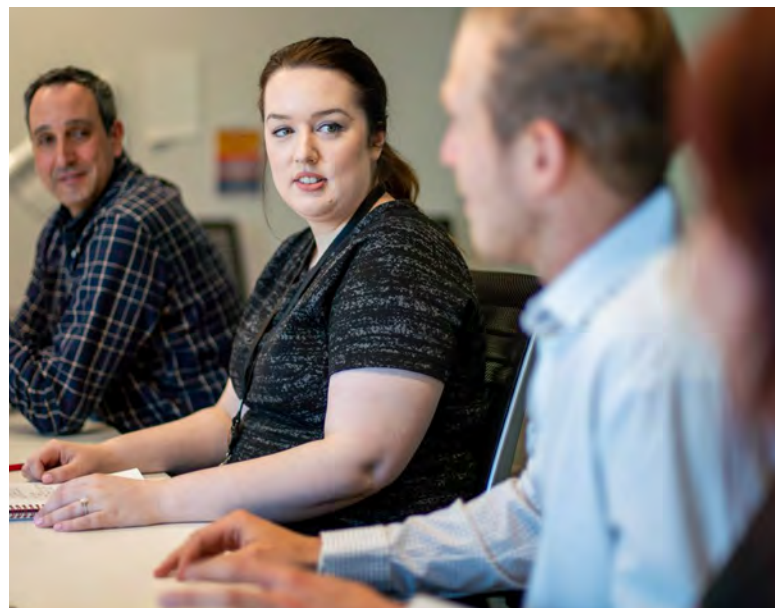
労働安全衛生



タケダは、従業員と私たちが働き、住み、貢献する地域の健康と安全を守る方法で事業を行うことを約束します。

これは、タケダの優先事項でありミッションである、「人々の健康と医療の未来に貢献する」ことを実現するための基本となります。社会との深い信頼関係を築くための一歩は、タケダの従業員とパートナーに健康で安全な職場を提供することから始まります。このミッションを実行するため、次の原則に従っています。

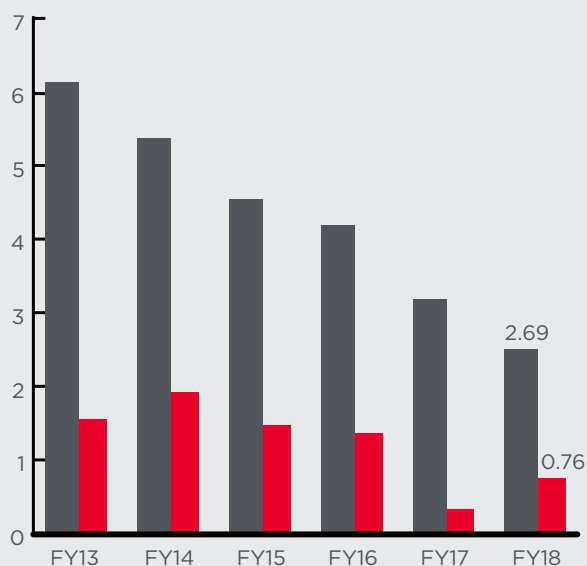
- ・タケダは、革新的な管理方法を実践し、自動車事故の防止に取り組み、潜在的な危険とこれに伴うリスクを認識しつつ、危険除去に務めるなどの活動を通じ、健康と安全のグローバルリーダー企業となるべく努力しています。
- ・タケダは、従業員が健康的な生活習慣を構築するために役立つツール、リソースやプログラムを提供しています。
- ・リーダーシップの関与や説明責任を通じて EHS(環境、健康、安全) をタケダに根付かせ、従業員の業務のあらゆる面で EHS を考慮し、EHS のリスク低減に積極的に貢献するよう推進しています。
- ・プロセスの開発や改善に際しては、従業員、従業員の代表および必要に応じてパートナーが参加し、協議しています。



Safe Takeda

タケダは、2020年度の休業災害度数率を2013年度比で30%低減するという目標を掲げ、2015年度より安全活動「Safe Takeda」を全社で推進しています。タケダは2017年度にこの目標を到達した後も、さらなる改善を進めています。

Safe Takedaのパフォーマンス



● 労働災害度数率¹

● 休業災害度数率²

¹ 不労災害を含む

² 100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

集計範囲：旧タケダの全ての研究所、生産拠点、オフィス、営業部門。全従業員の約95%を占める。
(シャイアーの買収によるデータを除く)

データより、事故の多くは製造現場で発生しており、休業災害が多かったのは、動いている物への激突、有害物等との接触、切れ・こすれ、および転倒・転落事故でした。このような背景を踏まえて、「Safe Takeda」は、これらの事故の削減を最優先課題として、取り組みを進めてきました。具体的には、安全週間における啓発活動、職場巡視、責任者やオペレーターによる安全宣言、事業所間でのベストプラクティスの共有などの活動を推進しています。オフィスと営業部門で報告された休業災害が多かったのは、転倒・転落事故と車両事故であり、一部地域のオフィスではこれら事故の削減を目指した活動を推進しています。

EHS監査の他に実施されている、安全向上策の一つがフラッシュレポートとフォローアップレポートの仕組みです。これにより事故の根本的原因を把握し、速やかに対策を講じることができます。また各サイトにおいて事故削減目標を設定しています。また、労働関連疾患も含めた取り組みを進めています。Safe Takedaは、従業員一人ひとりの安全意識を高め、安全文化を強固にしていきます。

2018年度には、各施設での重大なEHS事故の減少に向けた取り組みであるEHSアラートを開始しました。これは2段階の取り組みです。第1段階として、EHSアラートは、世界各地のタケダのサイトにおける重大なEHS



事故をマネージャーに通知します。事故と、重大な結果に至る可能性のあった事故が報告対象です。第2段階では、マネージャーは各チームにそのリスクを伝えます。このような事故の多くは、他のサイトでも発生する可能性があるためです。必要な場合は、リスクアセスメントを行い、リスク低減に向けた行動計画を策定します。このように、EHSアラートは情報伝達と予防管理の両面で活用されます。2018年度には、安全な機械操作、高所からの転落、リフト、構内委託業者の管理、移動式脚立に関する事例などを共有しました。

EHSアラート：リスクを伝え、事故を防止する

SAFE TAKEDA

EHS Alert 004

ASIA – GMS SITE; 22ND OCTOBER 2018
SAFETY – Non Lost time Injury: Unsafe chemical handling-Projections

Description

The quality control operator was conducting a routine solution preparation, inside the laboratory fume hood (1), using a 250ml volumetric flask in order to mix Methylene Chloride with Dimethyl-2-butene and Methanol. During the manual stirring step (2), the stopper unexpectedly blew up and the solvents released reaching the operator and causing him/her some minor eyes injuries. The consequences could have been even worse because of hazardous properties of these substances (3) and the unsuitable protection.

Immediate Causes

- While mixing the solvents, the internal pressure increased causing the content being projected from the flask.
- The fume hood's front sash glass window was not moved down by operator before starting operations (2).
- The operator was wearing conventional corrective glasses, without protection against droplets projections.

Contributory and Root Causes

- Inadequate SOP: the use of corrective glasses was allowed for this task.
- Inadequate safety culture: general safety rules were not followed (fume hood glass window safe position)
- MOC (management of change) non applied: a minor modification of solvents concentration was introduced without considering it as a significant change, then the task risk assessment was not reviewed.

Actions

- Update SOP: use of safety glasses even while wearing eye correction glasses (4), and sealed goggles (5) when there is a risk of projection.
- Re-training workers on general safety rules and specific procedures
- Improve safety culture: safety gembu walks, unsafe situations report, ...

Key learning

- Safety leadership, follow rules & SOPs.
- Proper risk assessment.
- MOC also for minor changes.

1 EHS アラートの表題

2 地域、分類

3 内容

4 写真

5 直接の原因

6 根本的原因

7 是正・予防措置(CAPA)

8 重要な指針

EHS ALERT MANAGEMENT

EHS Alert : 004 SAFETY 22nd -OCTOBER 2018

Safety (unsafe chemical handling) -Projections

Site: Date Analysis:

→ **Communication Plan**

Action	Y/N	When	Who	Status	Comment
Translation into local language					
E-mail managers					
E-mail middle management					
E-mail employees					
Posted on EHS communication board					
Posted on workplaces boards					
Toolbox talk, Gemba Walk, Safety dialogs, etc...					
EHS meetings					
Screens					
Other 1:					
Other 2:					

3 → **Could it happen to us?**

Date Analysis: Could it happen to us? Yes / No (if "No" skip the following analysis)

Where: Site Department/s
Workstation/s

Action	Y/N	When	Who	Status	Comment
Risk Assessment Review					
Gap Analysis					
Engineering Actions					
Procedural Actions (SOP, etc.)					
Behavioural Actions (training, etc.)					
PPEs					
Other					
Other					
Other					
Other					
Other					

5 → **Follow-up**

When has been the CAPA completed? Has been verified the effectiveness of action plan implementation? (Who, When, Conclusions) Key Learning

- 1** EHSアラート記録

2 情報伝達

3 当施設での発生の可能性

4 CAPA

5 フォローアップ

製造プロセスの安全への取り組み

製造プロセスの火災・爆発、漏洩による人と環境へのリスク低減の取り組みも重要な課題の一つです。各事業所では、潜在的な危険性を把握するためのリスクアセスメントに基づいてEHS目標を定め、下記などの項目についてリスク低減に向けた活動を推進します。

- ・ 老朽化施設に対する計画的保全を行っています。
- ・ 施設内の可燃性ガスや粉塵に引火する可能性のある静電気や可燃性・爆発性物質に対する安全管理を行っています。
- ・ 安全性マニュアルの作成などを含めた教育訓練を行っています。
- ・ 自然災害や緊急事態が発生したときの対応手順を定め、避難訓練、緊急時の対応訓練などを実施しています。
- ・ 各事業所での大規模工事においては、安全管理に万全の注意を払うとともに、協力会社と安全情報を共有し、事故や災害の防止対策を徹底しています。

製造プロセスにおける火災・爆発の防止は最優先事項です。安全性を高めるために、使用する化学物質及び製造する医薬品の物理化学的性質を把握し、その性質に見合った製造プロセスと製品の安全性アセスメントを開発しています。また多くの生産拠点では、重傷や生命が脅かされる可能性がある事故を検討する Serious Injury and Fatality (SIF, 重傷・死亡) プログラムを策定しています。SIF に至りかねない事故に着目し検討することを通じて、原因を解明し、予防措置を講じています。このプログラムは、タケダの全ての生産拠点での導入を進めています。